明治三十四年三月二十五日發行（明治二十年十一月本會創立）
第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　毎月一回廿日發行　内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百叁拾六號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第三十六號　目次

講演

寄書

食物調理法

衛生叢談

中外彙報

近事片々

大日本婦人衛生會記事

特別廣告（其一）

本月九日本會の總集會に於て役員改選致し候處左の如く當選御承諾相成候に付此段會員諸氏に告ぐ

因記前會長仁禮壽賀子には多年本會々長として其効績少なからざりしが一昨年來會長辭任の事を申出でられ候事故今回は採點仕らず右御了承有之度候幹事中西男爵夫人へは目下依賴中に有之候尚評議員は追而會長より特選の上決定の筈に候也

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

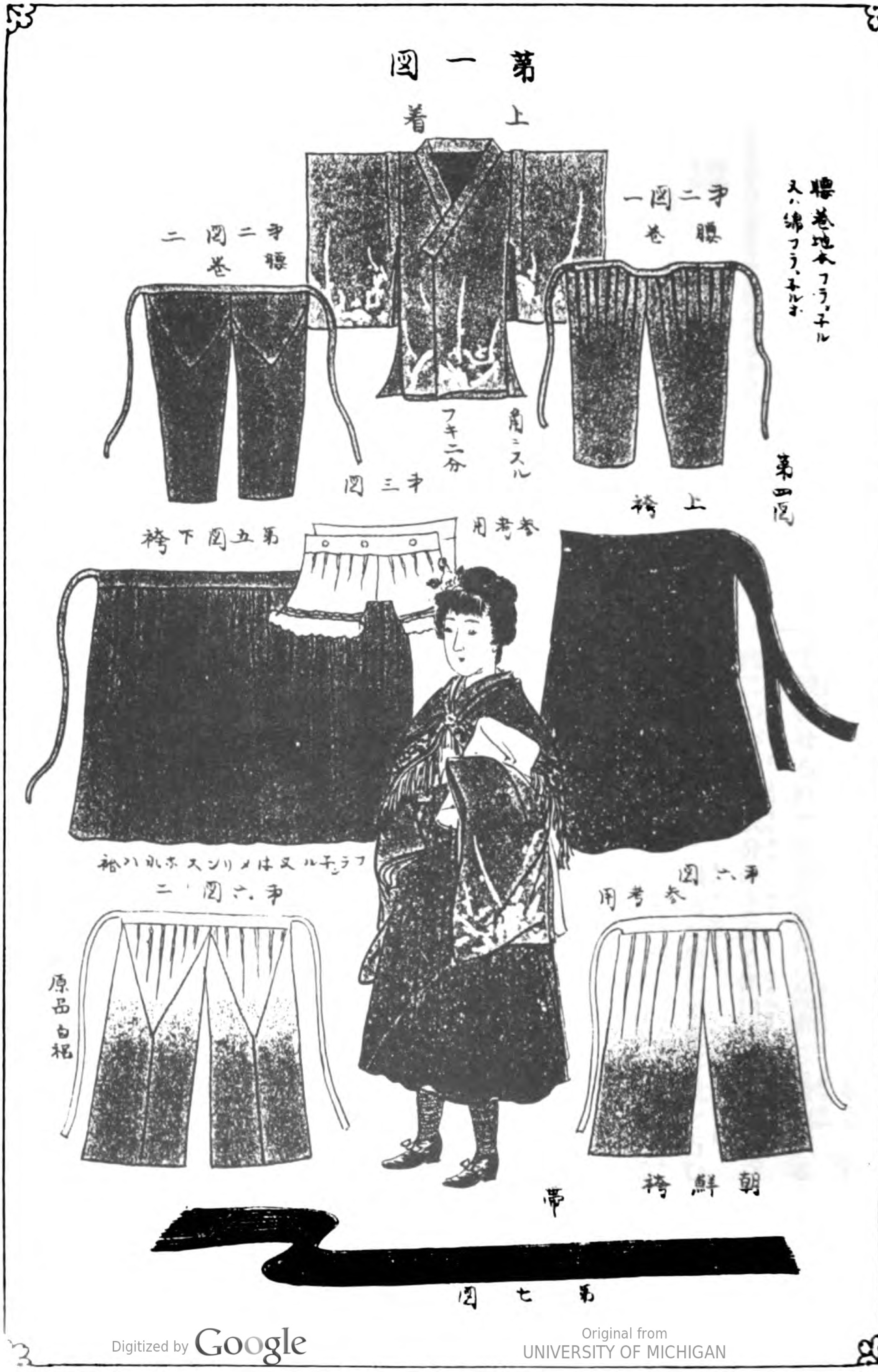
副會長　濱尾作子

（姓名イロハ順）

幹事　鳩山春子
仝　男爵夫人　西　靜子
仝　穗積歌子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子

女子改良服

弘田醫學博士考案



講演

「ソマトーゼ」に就て（於本會）

醫學博士　隈川宗雄君述

私は今日「ソマトーゼ」と云ふ題にて御談を致さふと思ひますが、一躰此「ソマトーゼ」と申すものは如何なる種類の滋養品てあるか、又如何なる榮養價格を有して居るかと云ふ事を、御話し致す前に食物の滋養成分に就て聊か述べ、夫より本題に移らふと、思ひます。

さて食物の滋養成分と申すは御承知の如く蛋白質、脂肪及ひ澱粉類(含水炭素質)の三種てありますが、之れらの養成分は躰内に入りて如何なる作用をなすかと云ふに、躰の成分に化せらるゝ事と、躰内に於て酸化せられて活力(温及び運動)を發生すると、の此二つが滋養成分の主なる作用てあります。

身躰の成分として最も必要にて且多量を占むるものは蛋白質にて、次に脂肪次に含水炭素質（葡萄糖及びグリコゲン）であります。

水分鹽分等の無機物も亦有機物と共に組織の構成上缺く可らさる成分にて、現に水分の如きは全身の半量以上を占めて居ります、然しなから凡て無機成分は有機成分と異なりて活力を生する作用を有しませぬ。此活力の發生は生活上缺く可らさる機能にて、吾人安靜の際にも心臓肺臓等は間斷なく運動を營み、又皮膚は絶えす温を消失するも躰内の温度は殆んと不變であります、之れ等の活力は皆滋養成分の分解によりて生じます。人若し養成分を取らざる時は躰成分か食物の代りに酸化せられて活力を發

します、故に一定時間は生活を繼續し得るも、饑餓久しきに亘れば身體の成分次第に減少して遂には餓死に陷ります。

而して右の三滋養成分中活力發生の度に於て主位を占むるものは澱粉類であります、既に發育したる後は體成分の増減比較的僅少なる故に日々體内に吸收せらるゝ所の滋養成分は殆ど全く煎燒せられて活力に變します、而して各滋養成分の體内に於ける活力發成の度は其攝取量に比例致します、この關係を少しく明瞭ならしめん爲に大人の食量に付左に其大畧を述べます。西洋人の食物は一日平均蛋白質一一〇、〇瓦脂肪五五、〇瓦澱粉五〇〇、〇瓦前後を含有し、日本人の食量は殊に蛋白質量に於ける諸說未だ一定致しませぬが是まで諸氏の調査によれば一日の攝取量平均蛋白質八〇、〇乃至九〇、〇瓦脂肪二〇、〇瓦澱粉四八〇、〇瓦前後にあります、右の如く滋養成分の攝取量を計算致しましても、元來右三種共に其化學上の構造か全く異なりて居る故正當の比較は立ませぬ、故に從來に在りては各滋養成分か體内に於て酸化せらるゝ際に生ずる温の量を測りて其力を比較致します、即ち蒸餾水一瓦を攝氏一度に高むる温量を小「カロリー」と名けて之れを温價の標準と致します、又各滋養成分中には活力に變化し得る力が潛伏して居る、この隱れて居る力を滋養成分の張力と名けます、而して蛋白質及澱粉各一、〇瓦の張力は四、一「カロリー」脂肪一、〇瓦の張力は九、三「カロリー」に相當致します、此の比例によりて西洋人及び日本人の食物中に含蓄する各滋養成分の張力を概算すれは左の如き關係になります。

滋養成分の張力比較

各一日ノ量	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	澱粉ノ張力	全張力
西洋人の食物	(カロリー)四五〇	(カロリー)五〇〇	(カロリー)二〇五〇	(カロリー)三〇〇〇

日本人の食物	三二〇〇（三七〇〇）	一八〇〇	二〇〇〇	二五〇〇

即ち西洋人は一日平均約三〇〇〇「カロリー」日本人は約二五〇〇「カロリー」の張力を食物より取ります、而して各食中最多の張力を有するものは澱粉にて全張力の三分の二（西洋人の食）乃至五分の四（日本人の食）は澱粉の張力であります、之れに反して蛋白質の張力は西洋人にありては澱粉の四乃至五分の一日本人にありては約其六分の一又脂肪の張力は西洋人にありては澱粉の四分の一日本人にありては殆と其十分の一になります。

主に肉食を取る西洋人に於ても米飯を主食とする日本人に於ても日々最も多量に食物より吸收せられ躰内に入りて活力の材料となる養成分は澱粉であります、西洋人は主に之を「パン」より取り日本人は之を米麥飯より取ります、但し「パン」及米麥飯は澱粉の他に尚ほ一定の蛋白質と小量の脂肪とを含んで居ります。

脂肪は多量の炭素を含有する化合躰にして同量の蛋白質及澱粉に比すれば二倍餘の張力を有しをるも、本邦人は古來の習慣により多く脂肪を食し得ぬが故に其全張力は蛋白質の張力よりも尚ほ少い割りであります。

世人は一般に肉類牛乳鷄卵等が主なる滋養品の様に申ますが其實活力發生の度より觀察を下しますると吾人に最も必要なる滋養品は肉類鷄卵牛乳等にあらずして米麥飯及び「パン」等であります、故に實際に於ても亦た米麥飯及「パン」が食物の主位を占め、肉類鷄卵等は副食の位置にて之れを補充して居ります。

今米麥飯「パン」等を廢して牛肉鷄卵牛乳等を大量に食する人ありと假定し其養價及び代價の關係を御參考までに比較すれば左の如き割り合ひになります。

偏食の例類

品種	分量	代價	蛋白質	脂肪	糖質	全張力
牛肉	三斤	九十九錢	二六八、〇瓦	一〇四、〇	少量	二〇六六
牛乳	一升五合	七十五錢	一〇二、〇	一一〇、〇	一四四、〇	二〇二七
鶏卵	中三十個	六十六錢	一四六、〇	一四六、〇	少量	一九五二

一日平均牛肉三斤又は牛乳一升五合又は鶏卵三十個を食すれば忽ち下痢及び嘔氣を催して到底之れを持續する事は出來ませぬ。縱し一定時之れを食し得ると致しましても、蛋白質及び脂肪量は著しく過剩なるに拘らず、食物の全張力は僅に二千「カロリー」前後に過ぎざる故其榮養價は尙ほ男子には不足であります、其結果身躰成分次第に減少して遂には榮養不良症に陥ります。故に吾人々類は到底肉食牛乳玉子等のみを以て永く生活を保存するとは出來ませぬ。言を換へて云へば蛋白質の攝取量が幾程過剩でありましても食物の全張力に於て不足を告ぐる時は、身体の蛋白成分は却て減少致します。右の表に對し米飯主食の一二例を左に擧げます。

(甲)米飯及牛肉

品種	分量	代價	蛋白質	脂肪	澱粉	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	澱粉ノ張力	全張力
白米	四合	六錢四厘	四七、一	五、二八	四六〇、五	一九三、[illegible]	四九	一八八八	二一三〇、一
牛肉	半斤 三五〇	十六錢五厘	四四、七	一七、三	—	一八三、[illegible]	一六〇、九	—	三四四、三
合計	一日ノ分	二十二錢九厘	九一、八	二二、六	四六〇、五	三七六、四	二〇九、九	一八八八	二四八四、〇

(乙)米飯及鶏卵

品種	分量	代價	蛋白質	脂肪	澱粉	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	澱粉ノ張力	全張力
白米	四合	六錢四厘	四七、一	五、二八	四六〇、五	一九三、[illegible]	四九	一八八八	二一四〇
鶏卵	七個	十五錢四厘	三四、[illegible]	三三、五	—	一三九、四	三五九、八	—	[illegible]
合計	一日分	二十一錢八厘	八一、一	三八、八	四六〇、五	三三二、五	四一〇、八	一八八八	二二六三、一

甲乙二食は蛋白質九一、八乃至八一、一瓦全張力二四八四乃至二二六三、一「カロリー」にて稍々本邦人の平均量に附合して居ります、而して代價は偏食例に比し實に雲泥の差であります、要するに蛋白質の攝

取量は稍々少量なるか食物の全張力に於て不足なき時は唯に躰成分を保存し得るのみならず之れを増加し得るものであります。

食物の蛋白質や澱粉は消化器を經て直ちに躰内に吸收せらるゝ物ではなく、消化液の作用によりて一定の變化を受けます、即ち蛋白質は「アルブモーゼ」と稱して水に容易く溶解する性狀に變じ、澱粉は糖類に化して吸收せられます、而して「アルブモーセ」は腸壁を通過する際に再び素の蛋白質に變して躰内に入ります。

胃腸内に於ける自然の消化作用に於て殊に必要なる關係は、蛋白質が除々に「アルブモーセー」に變化する事と、新生したる「アルブモーセー」は忽ち吸收せられ胃腸内に堆積する量が甚だ少ないと云ふとの二つであります、若し自然の滋養品中に存する蛋白質の代りに、之れより人工にて製したる「アルブモーセ」類を食すれは、胃腸の刺戟甚まりて下痢を發し消化機能に妨碍を與へます、又「アルビモーセ」を脉管内に注射すれば毒性の作用を逞し血壓を減し、遂には尿中に排出せられて毫も滋養の働きをなしませぬ。

この關係は澱粉に於ても同樣にて吾人は日常多量の澱粉を一時に食しますが消化機能は除々に之れを糖類に化し、而してこの糖は從て生すれば從て吸收せられ、胃腸内に多く堆積するとなく躰内に入て有益なる作用をなします、之に反して一時に大量の葡萄糖(澱粉の消化產物)を食すれは往々下痢を起し消化機を傷害するのみならず、吸收せられたる糖の一分は榮養作用をなさすして直ちに尿中に排出せられます。

故に「アルブモーセ」及び葡萄糖は蛋白質及び澱粉の消化產物に相違なきも直ちに之れを滋養品として

食する事は自然消化の順序に悖ります、矢張り蛋白質及び澱粉の姿にて食物より取らねば宜しくなりませぬ。前置きの餘り長過ぎは御氣之毒で御座いましたが「ソマトーゼ」の説明に淺からぬ關係がありますので、止むを得ず贅辯を費しました、之れより「ソマトーゼ」の御話しに移ります。

「ソマトーゼ」は段に御覽の如く少しく黄色を帶びたる殆んと無味無臭の粉末にて水に容易く溶解し、其成分は百分中有機成分八七、六水分七、一灰分五、三窒素一三、七四分てあります、有機成分は極めて微なる「エーテルエキス」の外殆んと全く「アルブモーゼ」にて窒素の量より之れを計算致しまするとハ五、七七%になります、本品製造會社の顧問醫「ヒルデブラント」氏の分析によれば「ソマトーゼ」は平均八五%の「アルブモーゼ」を含むと云ふてあります、其製法は消化作用によらずして肉に水を加へ「パピン」氏の釜に入れて之れを熱し、即ち高温と高壓との力によりて肉中の蛋白質を「アルブモーゼ」に變化せしめたるものにてあります。

全體「アルブモーゼ」には數種ありますが「ソマトーゼ」は「ノイマイスタル」氏が「アトミドアルブモーゼ」と名けたる一種の「アルブモーゼ」であります、而して其生理作用は消化の際に生ずるものと同樣にて少しく多量に用ゆれは消化機を害し、下痢を起し、又脈管内に注射すれば毒性作用を呈し尿中に排出せられて毫も滋養の力がありませぬ。吾人が日常食物より取る所の蛋白質は胃腸内に於て「ソマトーゼ」と殆と同一なる「アルブモーゼ」に變化して吸收せらるゝ故殊更に「ソマトーゼ」を攝取する必要なきのみならず前に述ましたる如く蛋白質を最初より「アルブモーゼ」として取るとは自然消化の順序に悖ります。

是れにて「ソマトーゼ」は如何なるものであるか御分りになりましたろうと思ひます、次に「ソマトーゼ」と二三滋養品との滋價及び代價の比較に就て申しませふ。

此瓶一個の「ソマトーゼ」一〇〇、〇瓦ありて其代價は二圓二十錢であります、而して大人は之れを十日間に用ゆる事になつて居ります、故に一日の量は一〇、〇瓦にて其代價は二十二錢であります、此一〇、〇瓦の「ソマトーゼ」は蛋白質の滋養力に相當すべき「アルブモーゼ」八、五瓦を含んでをります。

「ソマトーゼ」と牛乳との比較

一、蛋白質の量を標準とす

品種	量	代價	蛋白質	脂肪	糖	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	乳糖ノ張力	全張力
ソマトーゼ	十瓦	二十二錢	八、五瓦	〇	〇	三四、八五カロリー	〇	〇	三四、八五
牛乳	一合一勺半 二〇〇瓦	六錢二厘五毛	八、五瓦	[illegible]	[illegible]	三四、八五	八〇、〇	[illegible]	一六九、[illegible]

二、代價を標準とす

品種	代價	量	蛋白質	脂肪	糖	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	乳糖ノ張力	全張力
ソマトーゼ	二十二錢	一〇、〇瓦	八、五	〇	〇	三四、八五	〇	〇	三四、八五
牛乳	二十二錢	四合四勺 八〇〇、〇	二九、九三	三〇、[illegible]	四二、[illegible]	一二二、七	二九八、七	一五五、三	四五九、四五七
									1=13

右二表の如く「ソマトーゼ」の滋價は牛乳に比し蛋白質量に於て牛乳の三分一以下、張力に於て牛乳の十七分の一となります。

「ソマトーゼ」と牛肉との比較

一、蛋白質量を標準とす

品種	量	代價	蛋白質	脂肪	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	全張力
ソマトーゼ	一〇、〇瓦	二十二錢	八、五瓦	〇	三四、八五	〇	三四、八五カロリー
牛肉	四二、六	四錢二厘	八、五	三、[illegible]	三四、八五	三〇、七	六五、五五

二、代價を標準とす

品種	代價	量	蛋白質	脂肪	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	全張力
ソマトーゼ	二十二錢	一〇、〇瓦	八、五瓦	〇	三四、八五	〇	三四、八五カロリー
牛肉	二十二錢	二〇〇、〇瓦	五九、六瓦	[illegible]	二四三、六カロリー	二一四、八	五五八、四カロリー
					1=7		1=16

「ソマトーゼ」の養價を蛋白質量に於て牛肉の七分の一、活力發生の度に於て牛肉の十六分の一となります。

「ソマトーゼ」と鷄卵との比較

一、蛋白質量を標準とす

品種	量	代價	蛋白質	脂肪	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	全張力
ソマトーゼ	一〇、〇九瓦	二十二錢	八、五瓦	○	三四、八五カロリー	○	三四、八カロリー
鷄卵中一個		四錢四厘	九、七瓦	九、三瓦	三九、七七カロリー	八六、四九カロリー	一二六、二六カロリー

二、代價を標準とす

品種	代價	量	蛋白質	脂肪	蛋白質ノ張力	脂肪ノ張力	全張力
ソマトーゼ	二十二錢	一〇、〇五瓦	八、五瓦	○	三四、八五カロリー	○	三四、八カロリー
鷄卵中	二十二錢	十個	四八、五	四六、五	一九八、八五	四三二、四五	六三一、三カロリー
					1=5.7		1=18

「ソマトーゼ」の養價は蛋白質量に於て鷄卵の約六分の一、張力を比較すれば鷄卵の十八分の一なりとす。

右一括

品種	代價	蛋白質	全張力
ソマトーゼ	一	一	一
牛乳	一	三、五	一七
牛肉	一	七	一六
鷄卵	一	五、七	一八

結

「ソマトーゼ」の養價は牛肉牛乳鷄卵等の養價に遠く及ざるとは以上の各表の示すが如く明瞭てあります、故に健康の人又は肉乳卵（鳥肉魚肉も亦均し）等自然の滋養品を食し得る患者が殊更に「ソマトーゼ」を用ゆるは毫も其理由なく殆んと兒戯に近しと云はねばなりませぬ。

然しながら重症患者にして自然の滋養を攝取すると能はざる場合に於て「ソマトーゼ」又は肉ペプトン等を適量に使用して、患者之れに堪ゆる時は滋養

の力は凝きも多少神心を安易ならしむる効あるもの
と思はれます。

附記（數値）

分量及び時價

品種	ソマトーゼ	牛乳	中等牛肉	鶏卵大	同中	同小	三等白米
代價	二圓廿錢	五錢	三十三錢	三錢	二錢二厘	一錢八厘	一錢六厘
分量	一瓶	一合	一斤	一個	一個	一個	一合
瓦	一〇〇、〇	二〇〇、〇	四五〇、〇	肉容 五三、五	三八、五	三二、二	一五〇、〇

養成分百比例

品種	ソマトーゼ	牛乳	牛肉	鶏卵	白米
蛋白質	八五、〇	三、四	一九、八六	一二、五五	七、八五
脂肪	—	三、六五	七、七	一二、三	（〇、八八）
含水炭素	—	四、八	—	—	七六、七五



女子の衣服改良に就て（於本會）

醫學博士　弘田長君述

私が今日お話を致しますのは學校へお通ひになる婦人の服即學校服の改良の雛形に就てお話を申上げる考で御座います、それで其改良を思ひ付きました所以を大略チョット述べまして、それから品物を御覧に入れる方が順序が宜からうと思ひますから、其思ひ付きました所以を唯今チョット簡單に申述べやうと思ひます

婦人の現今の生活を昔の生活に較べますと云ふと、餘程狀態が變つて居りますこと丶考へます又事實考へるばかりでなく全く變つて居るに相違ないのであります、第一昔で御座いますと云ふと、御承知の通り、馬車や人力車と云ふものは無くて、大概の身分の方はお歩きになつたやうな生活であつて、又數

里或十數里離れて居る處へ行くにも、大概の方は徒步でお出になつたので御座いまして、別段に駕籠を用ゐると云ふことは少數な人が用ゐたので、最も多數の方は步いて行くやうな狀態であつたので御座います、それから又其れも少數の方ではありますけれども、一方では御婦人と云つても多少武術の稽古もして居られた事實もあり、或は薙刀とか或は鎖鎌と云ふやうな工合に、多少さう云ふ稽古を爲さッた、殊に地方は何處の藩にしても多少はさう云ふ方が有つたやうに思ひます、でさう云ふやうに其身體を使ふと云ふ方のことに就ては、隨分昔は止むを得ず使はなければならぬやうな狀態になつて居りました、所が現今の姿になりましてから、何ういふ具合に變じたかと云ふと、大變便利なる人力車がある故に、少し離れた處へ行くにも、直ぐに乘つて行くと云ふ具合である、又乘つて行かざるを得ん、時間が非常に必要になつて來たから、何うしても之を用ゐなければならんやうな姿になつて居りますからして、其時間を惜むのと便利と兩方で以て、遂に人力車に乘ると云ふことが多くなつて、お步きになることが少なくなつて來て、加へて此武術とか何とか云ふやうな身體を練る方の生活狀況及び教育と云ふものは、殆んど跡を絕つたやうな有樣で御座います、さう云ふやうに生活の有樣が非常に變ると共に亦一體の狀況が非常に變つて來ました

第二にはそれと同時に非常に精神敎育の方が昔よりは盛になつて參つて、大概の婦人は皆學校へ通ふ、學校へ通はなければ自分の家で稽古をすると云ふ具合に、非常に精神の敎育が盛になつて來て居ります、さうして昔の狀況と比べますと、昔は精神の敎育は極く少しであつたものが、現今になつては精神の敎育が非常に盛になつて居つて、マルで昔とは反

對で、今の方は精神の教育が非常に盛であつて、さうして身躰を補ふと云ふ方の方法はマルで無いと言つても宜いやうな具合で御座います、故に身躰は益々薄弱に傾いて仕舞つて、少しも身躰が強固になると云ふ方の方針にはなつて居らんやうに考へられます

それから第三には昔の生活であると云ふと交際が非常に少くッて、交際の範圍と云ふものが狹かッた、又生活の狀況も大變樂であつたやうに考へます、他の地方も同樣でありませうが何れの藩にしても皆祿と云ふものを貰つて居て其れが先祖代々傳へると云ふやうな具合でありまして非常な失策でも仕なければ、子孫に傳へることが出來るから、生活は先づ一定して居つて、非常に困ると云ふやうなことは、無かッたらうと思ひます、生活の方にも稍々困ると云ふ方の點が少なくして、さうして交際も狹く樂であつたやうに私は信じますが、其れに反して現今の狀況であると云ふと、皆働いて食はなければなりません、此處には華族さんの方が出てお居で御座いませうが、華族さんは極く少々の人數で御座いますから、其れは論外として置いて華族以外の人は大概働いて生活すると云ふ狀況で、誰しも今日は働かなけれなはらんと云ふことに、非常に生活の有樣が變動して居るが、其働くと云ふことに就ては何うしても身躰が健強なる者でなければならんと云ふことは何うしても必要であると思ひます、况して働いて生活しなければならぬ上に、又社會の交際と云ふものが昔よりも余程頻繁になつて居ります

それで昔のやうに身躰を練らないと云ふことゝ、其れから精神の教育が現今は盛であると云ふことゝ第三には働いて生活をしなければならんと云ふ此三ッの理由がある故に、現今生長しつゝある御婦人の身躰に就ては何うしても其精神の發育を促す方法があ

ると同一に又身躰の發育を十分健全に爲なければならんと云ふ必要があることは明かであらうと思ひます然るに却つて其れは生活の安樂なる昔は餘計に致して、さうして骨の折れると云ふ時代になつてから非常に少くなつたやうに思はれます夫故に今日の場合では、何うしても其躰育を非常に盛にしなければならんのは、之は何方も御承知でありませうが其身躰を發育さすと云ふ方法を取らなければならん場合に男子の方は其方法が餘程備つて居ります――改良を要すると云ふ必要はありませうけれども兎に角其方法は幾種も備つて居りますので御座いますからして現今の狀態であれば男子の方は唯夫れを進めて、改良して往けば宜しいので御座います、翻つて御婦人の模樣は如何かと云ふと、殆んど方法は無いと言つても宜い有樣であつて、僅に學校へ行つて少し手を動す位であつて大したことは行て居ないのでありますからして此際には非常に婦人の身躰を發育させる方法を講じ且又さう云ふことを實行しなければならぬので御座います

夫れに就て一番起る問題が衣服で御座います現今の婦人の服では到底前申したことは實行が出來ない、現今の婦人の服では現今の行方以上のことは到底出來ません、何うしても改良をしなければならん、斯う云ふことは何人も唱へるので之には大分さう云ふ御意見の方が多ふ御座いますから……それで此論が確かな論であらうと思ひますから此際に一ツ婦人の運動躰操等を奬勵するに先つて、婦人の服を改良しなければならん、十分なる運動の出來るやうな服にしなければならんと云ふ必要が起つて參つたので御座います、私共其點に於ては色々工夫を凝らしましたが西洋の服が先づ缺點もありませうけれども、一番標準とすべき服であらうと思ひますけれども

此西洋の服と云ふものは、矢張西洋の衣食住で、斯く適して居りますが、日本の現今の衣食住の國へ持つて來て直に用ゐると云ふことは、到底出來ないと思ひます又何方も不便を感ずるであらうと考へますそれで先づ婦人の服を改良するには夫等の服を標準として、さうして日本の今日の狀況に適する物を造つて、さうして其れを實行したならば、或は行はれ易いやうになるだらうと云ふので、それで色々此婦人衞生會に御關係のある方とも御相談をして、さうして一ツの雛形を造つて見ました、皆さんが其形に就て十分なる御意見をお話し下さいまして、さうして何うにか現今の婦人の服を改良して、モット優つて居る、運動の出來易い服を造ると云ふことは今日お孃さんを有て居らるゝ御婦人方の義務であると私は信じます、皆さんもさう云ふお考で十分なる進歩をお圖りにならないと云ふと、ツマリ今日の阿母さんが自分で不十分なる服を造つて自分のお孃さん方へ當箝めて用ゐると云ふことになつて、矢張自分と同じやうな弱いお孃さんを造ると云ふやうな結果になつて母たる義務を十分に盡して居ないので御座います、さう云ふ譯でありますから若し御意見の有る方は御腹臓なくお談合になつて、早く適當なる衣服の實行が出來ますやうに、大變希望致しますので御座います

それで今日は濱尾さん鳩山さんからのお話もありましたからして、それで服を持參して御覽に入れ、御批評を願ひまして、成べく宜く改良の出來るやうに切望致します――――、今日は皆さんに御覽を願ふ爲に持參を致しましたから何卒十分に御覽を願ひたい

それで是は上着で御座います（卷首第一圖上着參照）

○是は通常の十二三歳位の子供の着物を、短く斷つ

たやうなものであります、さうして此處の眞中頃まで（膝の上モヽの邊を指す）の長に斷つて了つたやうなもので左右を少しづゝ開けたのは足搔を自由にする爲めであります

○襦袢は矢張從來の通りのものを着て其上に此着物を着るのであります

○それから帶は何うするかと云ふと、帶は兵庫帶を締める方が宜からうと云ふ私の考へで御座います、併し帶は、さう非常に關係も無からうと思ひますから、其れは別段に太した意見は持つて居りません、私は自分では男子のヘコ帶のやうなものを締めたら宜いだらうと思つて居ります

それから腰の方へ用ゐますのは斯う云ふ風なもの……チヨット車夫が着て居る猿股と云ふやうな風です、さうして之は雛形を二樣に造つて置きましたが何方を穿いたら具合が宜いか分りませんが兎に角二通り造りました（第二圖腰卷參照）

○之は私の考では大腿の下まで往くほどの長さのもので凡そ小さい男のお兒さんの着る、ズボンの長さ位が宜からうと思ひます

○それから之は一枚穿いたのでは、寒むければ二枚穿いても宜しい、それ等は適宜で御座います

○之は何う云ふ所から考へたかと云ふと歐羅巴の女子が使ふのが即ち是で御座います（第三圖參照）

○之は四ツ五ツ位の子供の用ゐる物でありますがツマリ此眞中を上から下へ斷り開けた所の違であります、さうしてモツ少し、足の方を長くしたもので御座います

其れから一番表面に着けるのは今日も皆さんが着けて居られるやうな、所謂行燈袴と少し異つたものですナ、即ち是です（第四圖參照）

○今までの行燈袴と少し異つて居るのは唯兩脇に開

けを附けないのです、左右に開きの無い行燈袴で御座います、此點に於ては西洋の袴と同じやうな具合であるが、何故開けないかと云ふと其れには色々理由があるのですが、ツマリ此下着や何かゞ見えない方が宜からうと云ふ考へで、それで左右の開きを塞いで仕舞つたので御座います

○併し左りの方は何うしても少し開けて置きませんと穿く時に不自由でありますから左だけは少し開けて置きまして、穿いて仕舞つてから、男子がズボンの前の釦を掛けるやうな具合に、隠し釦にして掛る積りであります、それから紐を結んで長く垂らす、マア斯う云ふ考で御座います

今私が申上げたので御座いますと其猿股見たやうなものと、行燈袴のやうなもの許りでは寒いだらうと云ふ論がある、又私も、さう思ひますソコで此朝鮮袴を一ツ雛形にして拵へてモウ一枚、下に穿くやうにして見たのです（第五圖參照）

○之は朝鮮袴を雛形にして造つたものであります、斯う云ふものを一枚穿いてさうして其上に唯今の行燈袴のやうなものを穿く、それは西洋にもあるのです決して例の無いものではありません

ソコで私の拵へた行燈袴は一重でありますが、昨今のやうな時候になれば矢張給が宜いですが兎に角私は其形だけを造つて見たので御座います

それから朝鮮には斯う云ふ袴があります（第六圖參照）

○之は實に高尚な色艶であつて、品格は決して賤しくないと思ひます、袴の色は何う云ふ色をお使ひになつても宜しう御座いますが、場合に依ては斯う云ふ色を使ふと随分美しからうと思ひます

斯う云ふやうにザット唯今申上げたやうな考でありますが、何卒一日も早く斯樣な着物が……即

ち運動の出來易い所の、上下別になつて居る所の若物が實行の出來まするやうに皆さんも一ツ御考へを願ひたいのであります、どうか此處へ來て能く御覽になつて、十分に御批評を願ひたい、又左うしたら宜からう、斯樣したら宜からうと云ふ御忠告も願ひたいです　（了）



寄書

肺病豫防養生法（第十二）

醫學士　竹中成憲君

入湯の事

餘り熱からざる湯なれば度々入浴するも妨なし隔日位には入浴して皮膚を洗ふべし肺病の初期にて身體衰へざる時分は毎日胸其他全身を冷水にて絞りたる手拭を以て摩擦すれば効あり皮膚に冷水を灌ぐときは知らず〳〵深き呼吸をなすものにして深く呼吸を爲すときは肺中の空氣多量に交換す是亦大に肺に益ありと云ふべし（此冷水中に食鹽（普通のしほ）若干を和せし最も妙）

毎朝又は毎日入浴するの慣習のものは敢て之を改むるに及ばず又浴後直に冷水をおびる慣習は大に良し肺に病あるときは皮膚は肺の働きの一部を代理するものなるを以て皮膚の注意大切なり然れども古來入浴せずして病を發するもの少なく之に反し入浴して失策するもの多し注意すべき事なり（江戸の朝湯に老人多かりしを見よ）

凡世界中我國人の如く熱湯に浴するものなし是害あるが如く見ゆれども慣習の久しき毫も害とならざるなり凡日本人に適當なる風呂湯の温度は百十五度（醫者の寒暖計にて四十七度）なり

重症者の爪は熱氣なきとき之れを剪むも妨なし

右の冷水を身體に用ゆるは冬期に於て之を始むると難し故に夏期に於て之を始め秋過ぎ冬に至るも之を廢せず遂に馴るを宜しとす若し誤りて感冒せる時は勢、之を止めざるを得ず

烟草の事

「タバコ」なる語は西印度の地名にして今を去る四百餘年前我明應三年コロンブス亞米利加發見の際其地に產する此草を歐羅巴に齎せしに始まる後ち我永祿二年佛國の人ニコー氏(「ニコット」と書す)葡萄牙より之を佛國に移し爾來全歐羅巴に流行せりと云ふ

「タバコ」草の植物學上の名を「ニコチアナ、タバクム」と云ふ「ニコチアナ」とは此佛國人の名に因み「タバクム」は即ち前記の地名に之を採れるなり文祿四年(神武天皇紀元二千二百五十五年)には既に我國に於て「タバコ」を用ゐたり十年の後ち即ち慶長十年には我國人は多分葡萄牙人より其種子を得たりけむ烟草を長崎に植へ後ち山城、大和にも植ゆるに至れり(或は長崎に先ち既に之を薩摩に植へしものありと云ふ)兎に角交通困難の時に在て此蔓延の速かなるは驚くに堪へたり

此頃田中祐吉君の物せるものを見るに左の事あり「落葉集」に據れば天正年中耶蘇教の渡來と共に世に弘布せりと見ゆ「遠碧軒記」には關原陣より後の事とあり「和漢三才圖會には」天正年中と記し「本朝世事談綺正誤」には烟草を移し植へしは慶長十年にして「きせる」及び烟草の渡りしは是より以前天正の初めなる由と記せり

扨て烟草は毒物を含むや明なり烟草を前記の如く植物學上「ニコチアナ」と云ふを以て此毒物を「ニコチン」と稱す一種の油なり之を過量に服用するときは脈數減少し心臟の力衰へ嘔吐を催し譫言を發し昏睡に陷る(此時上等の茶を飲むべし)

(此所予の持論)醫師は皆此毒物の性質を恐れて人に烟草の害あるをとく實に當然の事なり然れども拙者は普通醫師の恐るゝが如く之を恐るゝに及ばざるとを信ず凡そ百般の事一利一害は免るべからず又論より證據と云ふことあり今試に世間一般に老人を見よ老人にして煙草を嗜まざるもの果して幾何かある身に襤褸を纏ひ終日畑に出て鍬を執るの老農を見よ不潔なる煙草要具を腰にせざるものは蓋し稀なり煙草にして極めて有害ならしめば之を嗜むものは夭死すべきを以て老人に喫烟者なき道理なり一方より又喫烟せざるが故に命數果して長しとの證跡も擧らざるべし

西洋に在ては露國の婦人は人の前に公然喫烟するの風あり爾他の文明國の婦人は公然喫烟することなし(故に汽車の内などは面倒なり)性來之を嗜むものは密に寢室に於て之を用ゆ男子は之に反して喫烟の度平均我國人に何倍するや殆んど計るべからず而して外國婦人は長壽なるにあらず肺病も多くあり禁烟の爲め益を得ると認むると雖し元來世界中何れの國に於ても女子は男子に比し命長きなり百歲以上のものと聞かば女子と心得て間違なし此は天性にして煙草に關係なきや明なり古來煙草の人生に缺くべからざる證は西洋に於ても我國に於ても喫烟嚴禁の令を布きたるに係はらず今日に至りたるを以て知るべし即ち我元和五年(今を距る二百八十年前)には英王ゼームス第一世次で羅馬法王ウルバン第八世次で土耳古皇帝アムラス第四世等皆禁烟を命じ露西亞の如きは喫烟を以て國禁とし三犯は斬罪に處したり我國に在ても慶長十二年以來德川幕府數回喫烟嚴禁令を發しに之違反するものは家財を沒せり又「きせる狩り」と稱し江戸中の「きせる」を悉く日本橋の傍に集めしめたることあり皆無効にして今日に及べり嗚呼人

の烟草を愛するや實に此の如し嚴禁令を發したる國自から目下上等の烟草を輸出するも可笑し而して烟草は始めは皆葉を捲きて用ひたるものゝ如し「羅山文集」にも「貼干紙捲之吹火吸其烟」とあり即ち慶長の頃は捲烟草にして未だ烟管なく元和元年頃は烟管ありしことゝ「世事談」に據て知らると雖も兩端に鍮(かね)を用ゆる事は享保年間に始まると云ふ

「羅山文集」は

侘波古、希施婁皆蕃語也とあり

「めざまし草」(寛永二年印行)には

長崎詞にて人を打つ事を「きせる」と云ふ(きせてやれ、きせかけるの類)當事鐵細管は人を打つ爲めに設け置けり又竹に鍮の類を「きせ」て作れる故「きせらう」と云ひしが「きせる」と變ぜしなりとも

說き區々

和語なるや他國語なるや分らず

今の世にては烟草の用ゐ方に左の種類あり

第一　刻烟草(雁首に入れて用ゆ英語の「パイプ」は即ち雁首ある刻烟草を用ゆるの具なり我國皆通紙卷を挾むものを「パイプ」と云ふは誤なり後者は「シガレット、ホールダー」と稱すべし)

此法に二種あり

(甲)　雁首小なるもの(日本)

(乙)　雁首大なるもの(西洋、支那、朝鮮)

第二　葉卷「タバコ」

第三　紙卷「タバコ」

第四　嚙「タバコ」

米國にては稍大なる事務所に於ては喫烟を禁ず故に事務員等は嚙烟草を用ゆ之を用ゆるときは烟なきが故に人に知らるゝこと少なければなり唾液を吐出すには壺の備わりて遠方より其壺の中へ吐き出すことに著しく熟練したるものあり少年も亦公然喫烟す

るときは父母に咎めらるゝを以て此嗜「タバコ」の癖あり結婚するに及んで新婦の爲めに此嗜癖を始めて廢するを例とす

第五　嗅烟草　（英語「スナッフ」獨乙語「シヌップ、タバック」）

烟草葉を細末となし鼻の孔に入るゝなり今より三十年前頃までは米國に於ても此風盛にして貴婦人も之を爲せり烟草箱（スナッフボックス）ありて婦人の來客相集まるときは主人の婦人より此箱を出して各自の鼻に入れしむ之に馴れざれは嚔す又此粉を布片に包みて之を以て齒齦を摩擦するものあり

舶來刻「ゴルデン」「フラグラント」「リッチモンド」等は舶來紙卷と同一なり

舶來紙卷にして目下我國に流行するものは「ピンヘッド」「パットルアッキス」「カメオ」「フラグラント」「パイレート」「ハイアドミラル」「キングフイッシャー」「スリイキャッスル」の類なるが右之内英國製及就中米國製のものは皆種々なる藥品を加へて味を附したるものにして中には阿片を含むものあり爲めに該國政府の干渉せしことあり故に烟草其者は害少なきにせよ此類の烟草は多量に用ゆべからざるや明なり殆んど藥品を加へず天然純粹に近きものは土耳古烟草「エンシャンテレス」獨逸烟草「ラフエルム」なり（獨逸「ドレスデン」市製俗に「魯西亞卷」と稱し蓋し材料を魯國に採るなり（凡そ葉卷は箱に入るゝ前に皆其一端を剪斷するものなるを以て之より生ずる斷片を集め粉狀となし之を以て此魯西亞卷を製すると云ふ故に燃差の衣服敷物等の上に落つることあり注意すべし）

佛國巴里市（クリモー商會）にて製造する喘息烟草なるものあり印度大麻と稱する藥品を入れたる紙卷烟草にして之を一本吸ふときは大抵の喘息は輕快を覺

ゆ喘息にあらざるものも之を用ゆれば普通の烟草に比し極めて軟なるを以て風を引きたるとき等に之を用て良し本品は東京の大なる藥店にあり十本入八拾五錢位此喘息烟草を得難きときは醫師に依賴し「ヒヨス」葉なるものを貰ひ受け之を普通の烟草に混和服用すべし咳を止むること上記のものに殆んど全じ味は共に惡し

嚙烟草は(前に述る如く)專ら米國に於て流行す本品は烟草の葉に甘味を附し之を直接に嚙むものにして明に有害なれは用ゐざるを良とす

以上列擧の內嚙烟草を除き衞生上最も身體に關係を及ぼすものは葉卷なりとす葉卷の如き强きものは普通人には强きに過ぐべし然れども肉食及飮酒の後には强き烟草に堪ゆるものなり試に西洋料理及宴會の末期を見よ平生烟草を好まざるも亦之を用ゆることを得蓋し食に肉多ければ烟草は强なるを要す且西洋人は葉卷の如き强き烟草を用ゆるに際し日本人の如く烟りを深く肺に吸込むとなし隨て弱き烟草を吸ふと同一なり之を覺らずして我國人の洋葉を日本風に用ゆるは一考を要するなり葉卷の下等は一本五錢上等は一本金一圓以上なり紙卷の上等は一本二錢以上に該當するを以て我國目下の生計の度に在ては汎く流行し難し我國固有の小雁首的煙管は恐らくは永久捨たることなかるべし而して此小雁首こそ拙者の最も敬愛する處のものにして愚考に依れば日本煙草及日本風喫咽具は衞生上無害なるものとす

(未完)



臺灣に於ける小兒死亡と腦膜炎

此篇は川添醫學士の說かれたるものゝ拔萃にして贊成員松住臨太郞氏の寄送せられたるものなり

臺灣に於ける小兒死亡數は誠に夥しきものにして十中の七八は皆腦膜炎に襲はれたるものと云ふも不可なしといふ元來嬰兒の身躰は遺傳作用よりも寧ろ外界の刺激に非常の反應を呈するものなれば熱帶地方に於ては發熱咳嗽の如き風土病よりも神經的の腦膜炎多きことは爭はれぬ事實にして病に抵抗する力の乏しき小兒にありては一たび腦膜炎に襲はるゝや多くは不治の難症となるよし助るとも終生不具の腦となりて人の擯斥を免れず豈恐れさるべけんや今左に川添醫學士の所說を引きて臺灣に於ける小兒保護法の注意を促し併せて內地諸姉の參考に供せんとす

一　直射する日光に小兒の頭部を露すのが最も腦膜炎の原因を作り易いもので、彼の譯も別らぬ土人の子守に愛兒を任せ置くなどは、危險千萬な事である、傘を翳すにも横チヨにさして、日光はキラ〳〵背の小供を射て、見るからに慄と思ふとがある、加之土人の子守は自分の生家に遊びに行て主家の子を土間に捨て置いて平氣で遊んで居るとを見た、兎も角日中に外出さするとが宜しくない

二　若し小兒の頭部に發疹又は腫瘍が出來た時は、其外傷より自然腦膜炎を呼び越す者であるから、如何に輕くとも直に醫師の診察を請ふことを要する

三　耳の病氣も間々或は腦膜炎を發するものである、故に耳から膿漿が流れるとか又腫物が出たなら是れ又醫師に視するが宜い

四　身躰の弱い小供は何分種々の刺戟を受け易く

直に脳膜炎を起す者であるから、能く〳〵醫師に養育方法を問合はして置くが好い、又母の身躰の悪い時乳を呑ませるのが甚だ宜しくない此の如き場合には成るべく健康なる乳母を傭ふとか其れとも牛乳を呑ませることにするとか、兎も角此等の注意を怠てはならぬ

五　小供の生後八ヶ月前後に始めて齒を生す時其の刺戟で痙攣を起す者である、此時に能く注意せねばならぬ

六　時に依ると腸胃の病とか條虫の刺戟で痙攣を發することがあるから、常に飲食物に注意して成るべく消化の好い且つ能く煮たものを食はして、別して牛乳などは用法を心得て、之を飲む器械の如きも時々煮沸した水か乃至熱湯で洗ひ病毒及び腐敗物の着かぬやうにして置くことが肝要である

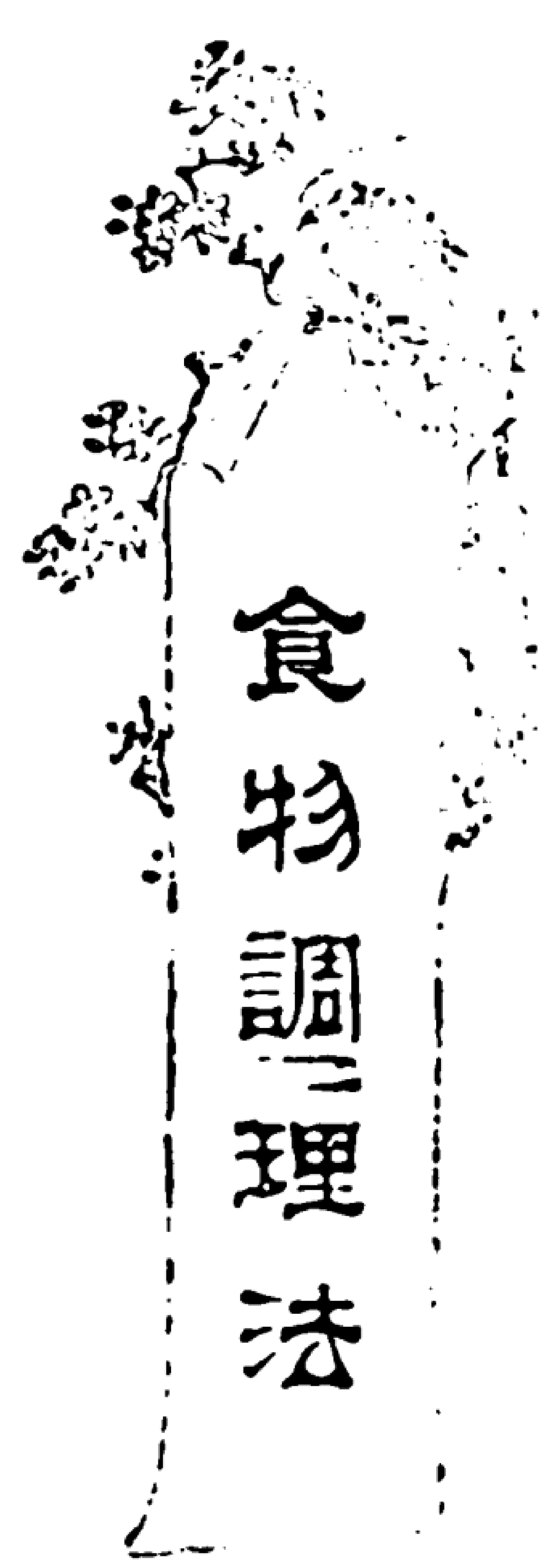
七　便通の秘結は甚しく腦に影響する者であるから一日必ず一二回の便通のあるやうに注意せねばならぬ

八　小供が何となく氣が安んじないやうで嘔吐を催ふし又熱が出て、呼吸が急しくなつて便秘するとか、若くは青便を洩らし且つ時々物に驚く風が有てオチ〳〵眠らぬやうなら、直に家の中を閑靜にして暗い一室に臥せしめ、冷水か氷かで頭部を冷やし、浣腸の經驗ある人は石鹼、冷水、リスリンなどで浣腸を施し飲料は皆冷たいものを用ふるとか十分應急の手段を盡して醫師の來るのを待つべきである

九　之を要するに嬰兒は無我無心なる神の子で有て、乳が欲しければ泣いて求め、腹が痛ければ泣いて訴ふるの外はなく、身に恙有ても自ら言ひ表はすべきことが叶はぬから、養育者たる母や乳母は常に機敏なる觀測力を以て其兒の心を量り身躰

に注意せねばならぬ、其には先づ以て兒童の健康は如何であるか、昨と今とは如何に其舉動に於て異同があるかと云ふことを慮かり、又時々は體溫器を以て兒の體溫を計つて見ることが必要である、

十　腦膜炎は如何にして起るかは略ぼ以上に於て述べ盡したが、今其の症狀の概界を一言で言ひ盡せば、先づ初發には何分食慾が進まない、其れに兩便が祕結して不意に眠を發して物に驚ろき、且つ頭痛がするので小いさい心にも流石苦悶を訴ふるので有らうか顏をしかめたり、又紅葉に似たる手を擧げて僅かに頭部擦するやうな眞似をする、此等の情態に在る時に速かに手當をするならば宜いが、やがて發熱又は嘔吐を催ふして時々痙攣を起し、苦悶頻りなるに至つては最早救ふべからざる難狀に陷つて居るので今更天に悲しみ地に哭するども、業に既に晩しと言はねばならぬ、其れ故に養育者は平素愛兒の顏色を見て其色の平常と異なることなきや啼泣するは何を告ぐるの意か、睡眠するは病を意味するに非ずやと、物に付け事に付け念々必ず愛兒の上を離れてはならぬ云々



食物調理法

内外實用料理法（第六）

横井たま子

●白魚と獨活と淺草海苔の清汁

白魚は其まゝ獨活は皮の筋をよく剝き短冊にきり淺草海苔は炙りて汁を椀に入れてから揉み込むなり

◎折衷鹽鮭の玉子酢

鮭の皮を剝きとり細く切身にし、獨活の皮をむき短

冊に薄く切る暫時水に浸しざるに上げて水をふため鮭の切り身と混合鉢に盛り玉子酢懸けて食す、玉子酢の作り方は一個の玉子を湯で黄身を鉢に入れよく練り砂糖を少し加へ酢をそろ／＼入れて摺り混るなり白身も薄くきりてあしらへにするもよし

◉鰤と蕪の餡かけ

鰤の身をよき程に切り少し鹽をふり懸け置き蕪も蒸すなり(略には湯てゝもよし)而して之を椀に盛合せて餡をかけ香料には、山葵、か生姜をおひして供すべし

◉寄慈姑の餡かけ

慈姑の皮をむき生のまゝおろし之に葛の粉と砂糖とを少し入れよく混和して如何やうになりとも形を作りて之を蒸すなり、勿論椀に入れて餡を懸けて、山葵、か生姜をおろして供せる、蒸し方は釜の中に水を少し入れ其上に篩をふせて、又其上にざるを引き其中へ切身と蕪を別／＼に蒸すなりさすれは最も早く手がるに蒸せるなり

○餡の拵らへ方は鰹のだし汁に醤油味りん、砂糖を入れ常の清汁よりもあまがらく加減をし葛粉を水にてとかし汁の中へそろ／＼流し込みぷつ／＼の出來ぬやうかき廻しながら煮るなり、あまり汁の沸立たる時一度に葛を入るれはぷつ／＼の出來やすきものなれはもしかたまりの出來たる時は之を毛篩にて漉して用ゆべし

◉蛤蜊と分葱の芥子あへ

蛤蜊を湯かき、分葱もざつと湯でゝ(つよくしぼるべからす六七分位に切り芥子味噌とあへるなり味噌の拵らへ方は初め味噌をよく摺り芥子を適宜に摺り交ぜ砂糖を加へ、而して蛤蜊と、分葱を入れて交合るなり

○芥子の拵らへ方は、粉芥子をふかき茶椀に入れ水

にてねり交ぜよくならし其上に紙を二重にしておしかぶせ其中へ水を少し入れ炭火の小き方を幾度も入るれは、チユー、チユー、と水は沸立ちて炭火に吸ひ込まるゝなり湯のなくなりし時を度として茶椀をふせるなり、暫時して紙を取りのけて芥子を用ゆれば鼻をつく如くに氣の立つものなり

◉蕗の薹の田樂

蕗のとうの開かぬものを串にさし唐がらし味噌を付けて焼くべし味噌は擂り鉢にてよく擂り砂糖にて味付け唐がらしの粉少し擂り交るなり之はすゐたる人の好む物なり

◉蕗のとうの味噌焼

蕗のとうを細かくきざみ（之は開き居きたるものにてもよし）味噌に交合（味噌はざつと擂鉢にて擂れは尚さうよし又其儘にてもかまひなし）団子の如く丸く平たくして之を網に懸けて焼くべし

又手かるの仕方は同し蕗味噌を小皿に入れ平たく押付け鐵架を二本火の上に橋渡にして其上に載せて焼もよし之は朝飯の菜に尤もよろし

西洋料理法

◉牡蠣と牛乳のスープ

牛乳一合を一人前として牡蠣の大なるは三ッ、中は五ッ六ッ、少なれは十位のつもりにてよろし

始め牛乳を鍋に入れ一合にバタ一さじ鹽と砂糖少し入れて加減をし煮立たる時牡蠣を入れ今一度沸立たる時鍋をおろし冷ぬうちに食すべし

但し胡椒少し入るもよし

バタを好まさる時は入れすともよし風味美なり

◉鷄肉の天麩羅

牛の油を焼鍋に入れ沸立たるとき三四人前位の肉なれは一ッの鷄卵を破りよくかき交せ夫を鷄肉に付けてパン粉を充分にまふし附け鍋に入れて揚げるな

り、魚のフライも之を同し。

他の仕方は

一羽の鶏を骨ともに程よく切り麦の粉をよく附けて鍋の油の沸立たる時すべての鶏肉を入れて（油の分量は中鶏一羽なれば牛の製油一斤か四分の一位を入るべし）塩をふり懸け片かはのよく揚るまで蓋をなし既に片かはの揚りたる時蓋をとり上下に肉を返し餘り強からぬ火にてとろ〳〵焼附かぬやう骨まてよく揚げるべし志かして、牛乳一合程鍋の中へ入れ又麦粉を二たさじ水にて溶かし之をも鍋の中へ入れよく交せ胡せうをふり懸け鉢に盛りて食膳に出すなり汁氣有りて通常のフライよりも味ひよろし

◉豚の切肉の煮方

豚の肉の脂肪をとりさりて之を細かくきり、四五分位ひに刻みたる珠葱に適宜のバタを加へ肉と共に鍋に入れその葱の薄鳶色になるまで煎り付け麦粉、胡椒、塩糖をケレイにて溶きよく加き交せて少し斗の湯を注し之を鍋に投じとろ火にて煮ること三十分乃至四十分間を用ふべし

◉揚菓子（フライケーク）

麵の粉一升、砂糖二合、ペキンパアダ小匙三杯、南きん豆二合（皮をむきたるもの）白胡麻少く加へ湯にて捏交ぜ丸めて、牛の油、又は胡麻の油にて揚るなり、此菓子は手がるにて風味もよく二週間位たもつなり

○注意

ペキンパアタの粉は麵包の如くふくらする者にて西洋菓子を製する時には必用品なれば洋食店に於て一瓶あがなひ求め置きたまへ





衛生叢談

◉臺灣坊主の病源に就て

禿頭病に就ては前號既に掲載せしが此篇は醫學博士土肥慶藏氏の時事新報記者に話されたるものなり講談中の題目は編纂者の命名せしものに係る

禿髮病には色々種類があつて老年禿髮（アロペチア　ゼニースス）は高齡になれば誰でも自然になるのであるが其他壯年禿髮（アロペチア　プレゼニーリス）とて早く藥罐頭になる性質の人もある或は神經性禿髮（アロペチア　ノイロチカ）で妙齡の少女が悲嘆の餘り一夜に全身の脫毛を來たした例もある又腸窒扶斯や肺炎の樣な急性の熱病の後や或は梅毒や肺病の如き慢性の全身病に罹つた時にも營養不良の爲めに脫毛することがあるそれで此節世間で喧しくいふ臺灣坊主即ち圓形禿髮症（アロペチア　アレアータ）の原因に就ては未だ一定の確說が立つて居らぬけれど玆に專門學者が近頃までに研究した所のものを概括して申せば要するに左の二說を出でぬのである

左の二說

（一）營養神經の障害に依て發するもの

（二）寄生性疾患に依て發するもの

右二說の內前者はベーレンスプルング氏以來主に獨逸と墺地利の諸學者が主張する所で現今皮膚病學の大家たる墺國のカポーシイ氏の如きも此說を採り此病を以て傳染性と爲す者は恐らくは斷髮性匐行疹（ヘルペス　トンヅーランス）と云ふ症の一種のものを誤診したのであろうと論斷して全く傳染性でないと云ふことを云うて居る

◉病因

又此病因は細菌の發生に依るのであると云ふ説を唱ふる者はグルービー氏だとかチン氏だとか其他色々の人が色々の黴菌を發見したが許間もなく其誤謬であると云ふことを指摘され近頃までは餘り目立ッた研究も世に出なかつたが四年前に佛蘭西のサブロッ氏が復た一種の細菌を毛幹と毛囊（毛髮を引拔くと其根に白き脂肉が附着して居る）の間に於て發見したので之が脂漏、面皰及び禿髮の原因となるのであると言ひ出したのです、そして其細菌が如何にして害をなすかと云ふと是が一旦發生した時は脂線に入つて脂線が漸々肥大して分泌過多となり面皰が生じ脂漏も亦隨つて發生する其内に細菌が益々蕃殖して夥しくなり且つ久しくなると細菌の自體より排泄する毒素の爲めに毛根が萎縮して終に脫毛を來すのであると云ふ説なのですされど此サブロッ氏の議論は當時佛國に於てすらも隨分許多の反對者があつたので同じ細菌が禿髮、面皰、脂漏等の各性質を異にする病症を起すの當否は姑く措くとしてもサブロッ氏の球菌は之を毛囊中に證明したと云ふことに止まり此細菌を他に移植してそして其部位に復び眞個の禿髮を發生せしめ得た實驗がない以上は萬有學上正確な説とは言ひ兼るのである或は偶然飛で來た細菌に過ぎないのかも知れないのです之に依りて此サブロッ氏菌も亦直接に禿髮症の原因をなすものであると云ふ斷定がし難いのです

又一方には試に猫や兎の頸神經を切斷して見ると其神經の分布して居る部位に禿髮を生じたことである是はマックス　ヨーゼフ氏やホントピアン氏や又は近くはベンデル氏等が實驗したのです又はレントゲン氏のエッキス光線の作用に依て禿髮を起すなど云ふ事實に據つて觀ると必ずしも寄生物に因らないでも禿髮症を發生すると云ふ事が分る即ち所謂營養

神經性の疾患であると云ふ議論の起る所以てす

◉土肥氏の實驗

私の實驗ですが、別に取とめて御話することもないですが、兎に角私が歐洲に參つて獨、墺、伊、佛、瑞國に留學し又露、英、白の三國へもちよッと旅行をして到る處病院をのぞきましたが維也納は皮膚病患者の極めて多いにも拘らず禿髮病を見ることは至て少なく伯林でも其他の諸國でも餘り見ませんでしたが巴里には頗る多いと見えて毎日のやうに病院へ禿髮病者が幾名も參りまして、尤も巴里のサン　ルイ病院は皮膚病の病院では世界で一番盛んですが實際に統計を見ても佛蘭西には割合に禿髮病者が多いです現に近き十餘年間に十回の流行を證明するとができるです右の如き情况であるからして獨逸、墺地利等該病の少なき地方の學者間には白ら傳染說を信ずる者が尠なく之に反して佛蘭西の方には專ら傳染說が行はるゝのだらうと思はれるさて日本に歸ると、直ぐさま地方の或る醫者が自ら禿髮病で困ッて居るが何か良き療法は無いかと待ッて居たと相談を受けたのが始まりで夫から醫科大學醫院で診察を始めると如何にも此病症が割合に東京附近に多數であると云ふことを感じたです、即ち明治三十一年四月に大學皮膚病科病室の設直後に於ける外來患者の中に圓形禿髮病患者が幾人あつたかザット統計を取ッて見たのが左の通りです

◉統　計

明治三十一年四月至十二月外來患者總數千三百七人に對し

	男	女	百人に付
局在性及汎發性圓形禿髮	三十一人	六人	三人

明治三十二年中外來患者總數千四百〇八人に對し

	男	女	百人に付
圓形禿髮	四十七人	十七人	五人
全身禿髮	六人	―	―

明治三十三年中外來患者總數二千〇十四人に對し

	男	女	百人に付
圓形禿髮	六十八人	二十八人	五人
全身禿髮	七人	一人	

明治三十四年一月より二月二十五日迄外來患者總數三百七十八人に對し

	男	女	百人に付
圓形禿髮	十一人	二人	四人
全身禿髮	一人		

◉發生の來歷

即ち禿髮病は皮膚病患者總數の百分の五內外に當るので隨分多い數です發生の來歷に就て患者の答ふる所は不明なのが多いが床屋に罪を歸するのも尠くない或は同病者の帽子を用ひたとか同病者の枕を用ひたとがあるなどゝ言ふ者もあるが實際傳染したと云ふ確かな證據は擧げ惡いです偶然玆に來合はした此少女(記者の前に居る患者を指して)などは頭髮を結ふに未だ嘗て髮結ひの手を借らず自宅にて必ず母親が手づから結ひ居たるにも拘らず十三日前より突然斯の如く五十錢銀貨大の禿髮部ができたと申すではありませんか又此患者の毛髮を取つて顯微鏡下に照して視るに毛髓は消失して毛根細く瘦せ恰も牛蒡の根見た樣に尖つて居る通常の毛髮ならば毛根端丸く太りて斯の如く萎縮しては居らないです即ち毛髮の營養不給を證して居る併し是が細菌の爲めか又は營養神經の障害によるかと云ふことは硏究の方法が極めて困難で未だ正確なる成績を得ない譯です傳染と云ふことは素人にも起る考ですが實際學問上の硏究をして其原因を捕へ得ぬ以上は傳染性のものと非傳染性の兩種ありと假定するのが最も穩當です又私は最前申した理由によりて此兩種併有說を信じて居るのです

◉素人の注意

要するに前述のサブーロー氏の實驗もあることと故素人は先づ本病は傳染するものとして油斷しない方が萬全である何故かと云ふと此圓形禿髮症を外にしても尙ほ他に黴菌の爲に起る傳染性の毛髮病は尠なからぬのである斷髮性匐行疹の如きは即ち其一ッで是は

毛髪が中途から短かく切れて矢張圓形をつくる病で「トリコヒントン」と云ふ黴菌が移ッたのです又「ピエドラ」症と云ふ者がある是は啻と南亞米利加で發見した病で歐羅巴には至て稀なので從つて餘り其性質が研究されて居らぬけれど日本には此症に罹る婦人が往々あると云ふ事を發見しました其患者の毛髪を檢すると恰も魚卵が海藻に附着したるが如くに見ます之が即ち黴菌の聚落であつて之を取りて寒天や布海苔の上に培養して見ますと根を出し枝を延ばして宛も栗の毬の如き形をなし又之を他の人の頭髪に移植する時は必ず同じ病を起して毛髪が漸く枯れるのである又白癬(フアブス)俗に言ふ白くもの如きも毛嚢の內に(アホリオン)と云ふ黴菌を發生して極めて痒ゆく遂には難治の禿髪症を起すに至るもので至つて傳染し易き性を有し房州あたりの漁村の小兒には廣く蔓延して居る學校などでは最も傳染し易い兎に角用心して清潔を守るが何より安全です

◉豫防方法

それで一寸豫防の方法に就て申しませう此圓形禿髪症の最も多く流行する佛蘭西に於ても床屋より傳播すると云ふ說が多數であるが今流行する臺灣坊主がよし傳染しないものとしても前にも述たる如く此類症にして現に傳染性を有するもの多くあれば此等に對しても是非豫防の必要を認むるのである床屋の雪脂取や櫛や刷毛等は最も危險物で消毒法も至て困難である日本の剃刀は一度々々砥いで洗つて使用する故に割合に清潔ですが夫でも折々は「たむし」の媒介をなすことがあるから尚ほ念の爲め熱湯に浸せば可なり消毒が足りるので之に「ホルマリン」や曹達を加ふれば尚ほ更によろしい巴里の床屋では剃刀を五千倍の昇汞水に浸して使つて居る格別刃はいたまぬと言ッて居る併し床屋ばかり責めるのは可愛想です旅

宿屋の枕や蒲團も極めて険呑で古き帽子や手拭又は汚れた手指なども亦病毒の傳播者である布海苔又は鶏卵等動植物性のものは黴菌蕃殖の媒介をなす之を用ひて毛髪を洗つた時は其跡で尙ほ一度加里石鹼を用ひて洗ひ直すがよい水しやぼん又は流動加里石鹼と云ふものが下山博士の發明にて製せられてあるが之を使用するのもよろしい若し又一旦此等の病症に罹りたる者は速く醫師に就て治療するに越した手段はないが豫防には二百倍のナフトール酒精を毎朝一回塗抹するが宜しい尤も發病の當初に直ぐ療治を加ふれば一二ヶ月にて全治すれども古くなる程毛根萎縮して直りが悪くなる、全身に蔓延した禿髪症になると半歳以上一年二年も療治の日数を要することがある神經過敏の者は再發し易い嘗て此病室に入院せる或る患者の如きは全頭の禿髪で纖毛をも留めなかつたが六ヶ月餘にて漸く頭部の過半を長き毛髪を以て被ふ迄になつたが其喜びの餘り一時發狂した斯る神經質の人は勿論神經性禿髪に罹り易いのである

◉毛髪洗滌のこと

又婦人が毛髪を度々洗滌する時は毛質を損ずると云ふて月に一度位しか洗はぬものが多いが是は頗る悪い風習で宛も種々の黴菌の發生を促す様なものである殊に「ふけ」が溜りて毛が抜け易くなり遂に糠粃性禿髪病(アロペチア、ピチロイデス)を起す人が我國には殊に多い様である婦人の結髪は何時にても解いて容易く洗ひ得るやうに結ひ方を改むるのは實用の上ばかりか衛生上からも極めて必要のことであらう近來此毛髪病の流行するに際して之を世に促し早く改良せしめたいと思ふです　（完）

◉禿頭病のかず〲

●禿頭病は獨り理髪のみならず古着古綿汽車汽船中

の注意旅人宿の枕夜具風呂屋の手拭及び浴湯にて頭部を洗はず上り湯の使用を充分なすこと等緊要なり●東京市内をはじめ大阪其他各地方は續々流行の傾向を呈し府下に於ける患者も既に百十餘名に達し一般發生の少ない區は麹町神田位で餘の區は何れも續々發生の傾きで新橋牛込邊の唄ひ女なども大分此病に罹るものもある女は毛の一本も大切にするのにゾク〳〵と拔ては實に大變です泣いても泣きゝれません、是れが爲め女髮結の恐慌は來り「今日は先づご[illegible]を食ッて空しく日和下駄をへらす●此頃では上流社會では髮結をかゝへ中流では姑阿母の手になり或は束髮で濟ますと云ふ有様此風が續いたら無駄に髮結錢を費すことがなくなりて經濟上大いしたものだ●牛込の或る床屋では臺灣坊主御斷りと筆太に書いて張り出したスルと御客がツメ込み大繁昌機敏の世の中！●禿頭病豫防のため女髮結の器具其他を消毒することになつたが石炭酸は臭ひと云ふので石鹸位で胡麻かすのもあるそうだ●又女髮結の中には消毒のためとて金盥をブラ下げて歩くものもある●大概中流からの人は女髮結道具を求めし者多き爲め中には世話なしだといつて物知り顏に道具をすゝめてカスリを取る髮結もあるそうだ●此頃のさわぎで勸工場でもどこでも髮結道具をならべ立て櫛屋は大繁昌晝夜製造に忙はしく目のまわる程なりと●禿髮病をハヤリ歌にうたうものを聞くに「憎くやおんなにはやりのやまァーイ髮の毛の、ストテオキ禿とはつらいねッてなとおつしやいましたね●此頃各警察署にては管内の男女髮結を呼び出して消毒の必要に就て懇々諭告したりといふ●日本坊主が臺灣坊主にかゝる決して丸儲けの譯には行かず府下蒲田村の妙蓮寺徒弟生内某は此程同病に罹り屆け出でたりと●千葉の小學校にても一時に多數の患者を發するに

至りたりと小學校は多人數集まる處ゆへ豫防宜しきを得されは本願寺の學校と間違へらるゝに至るべし

●靜岡市には既に九名の患者發生せりと、當府下郡部及神奈川埼玉八王子浦和等到る處多少は新患を出す模樣なり

中外彙報

●理髮營業者取締告諭

安樂警視總監は過日發布せる廳令第十號理髮營業者取締規則に基き該消毒藥品の製法取扱 應用 及消毒方法を左の如く規定し公示せり

◉消毒藥品の製法取扱法及應用

（フォルマリン液（百分中一分のフォルムアルデヒッドを含むもの）

製法　日本藥局方フォルマリンは澄明無色の液にして竄透臭を有し其百分中大約三十五分以上のフォルムアルデヒッドを含有するものとす此のフォルマリン一分に付蒸餾水（已むを得ざれば清水を用うべし以下同之）三十四分を加へて稀釋すれば消毒藥として廳令に規定せるフォルマリン液を得るものとす例へば一ポンドのフォリマリンに對しては卅四ポンドの蒸餾水を加へ一合のフォルマリンに對しては三升四合の蒸餾水を加ふるの比なり

取扱法　フォルマリンは劇藥に屬するを以て注意して取扱ひ且暗所に貯藏し一度開栓せば又嚴重に栓塞し置くべし消毒藥として廳令に規定せるフォルマリン液に對する取扱法亦同じ

應用　フォルマリン液は剃刀、剪刀、バリカン、櫛、ブラッシユ等各種理髮器具の消毒に適す

◉石炭酸（二十倍）

製法　日本藥局方石炭酸は無色或は微に紅色を帶ぶる長き尖鋭の結晶より成る塊にして特異の臭氣を

有す之を溶融するには栓開して温湯中に挿入し其の熔融を待つべし若し然らずして爐邊に温め或は直に火上に致すときは容器の破碎を招き爲に燃燒の結果發火の原因となるべし今熔融したる石炭酸五匁と蒸餾水（已むを得ざれば淸水を用うべし以下同之）九十五匁を加へ能く振盪し溶解するに至らしむべし然るときは廳令に規定せる二十倍の石炭酸水を得るものとす若し初め熔融したる石炭酸に等分の僞里設林或は酒精を加へ溶解し置くときは水を加へて稀釋するに當り溶解一層迅速なり例へば温湯中に熔融したる石炭酸一ポンドを取り之を等分の酒精或は僞里設林中に傾注し能く攪拌したる後に十八ポンドの蒸餾水を加へて稀釋すれば二十倍の石炭酸水を得べし若し僞里設林或は酒精を用ゐざるときは十九ポンドの蒸餾水を用うと知るべし換言すれば一ポンドの石炭酸に對して僞里設林或は酒精を用うるものに在りては約四升五合の蒸餾水を用ゐ僞里設林或は酒精を用ゐざるものに在りては約四升五合の蒸餾水を用うるの比なり

取扱法　日本藥局方石炭酸は劇藥に屬するを以て結晶したる石炭酸或は濃厚なる石炭酸水は注意して取扱ふべきは勿論皮膚に觸れざる樣注意すべし

注意　二十倍の石炭酸水は日本藥局方に尋常藥として規定しあるを以て請求證を要せずして藥舖に於て購求することを得

應用　フォルマリン液に同じ

●炭酸曹達液（百分中五分の炭酸曹達を含む）

製法　日本藥局方炭酸曹達は無色透映の結晶にして其の白色となれるものは風化せるものと知るべし今消毒藥として廳令に規定せる炭酸曹達溶液を得むとせば炭酸曹達五匁を取り九十五匁の水に溶解すべし例へば十匁の炭酸曹達に對しては約四合の水を用う

べきものとす

應用　炭酸曹達液を以て金屬製器具並角製品類を洗滌したるときは後に清水を用ゐ能く洗滌するに非ざれば銹化或は侵蝕せらるゝの虞あり

消毒方法　前掲消毒藥品の一を用ゐて理髪用器具を消毒するには豫め藥液に浸醮したる布片(脱脂綿花、脱脂綿紗の類)の如きものを用ゐ注意して器具を洗拭し後清水を用ゐて洗淨すべし一度用ゐたる布片は更新すべし

◉皮膚に疾患ある客に接したる理髪器具物品消毒法

フォルムアルデヒッド瓦斯消毒法　フォルムアルデヒッド瓦斯氣中に消毒すべき物品を二時間放置すべし、消毒匣より取出したる物品は外氣中に曝露し置透臭の消散せし後使用すべし、本消毒法は總ての理髪用器具品物に適す

蒸汽消毒法　蒸汽消毒法は流通蒸汽を用ゐ成るべく消毒器中の空氣を驅逐し驗温器を用ゐて一時間以上攝氏百度以上の温熱に觸れしむべし、左に掲ぐる器具は蒸汽消毒を避くるを可とす

革製器具、塗漆器具、護謨製器具、毛皮、角製器具、セルロイド器具、他物に染色の恐あるもの

煮沸消毒法　煮沸消毒法は沸騰後一時間以上煮沸すべし、左に掲ぐる器具は煮沸消毒を避くるを可とす

剃刀、剪刀、バリカンの如き刄器及蒸汽消毒を避くるを可とするもの

フォルマリン液　(百分中一分のフォルムアルデヒッドを含むもの)又は石炭酸水(二十倍)中に廿分以上浸漬したる後清水を以て洗淨すること、本消毒法は總ての理髪用器具物品に適す



◉鮮魚貯藏の硼酸硼砂

鮮魚貯藏用の硼酸硼砂の使用量は鮮魚二百六十匁に對し硼酸約五分の割合とすべし此以上を使用するは害ありて益なし

●肉類保存法

軍隊用食料　肉類保存の方法は肉類に錯酸を振散したる後食鹽を混和したる鋸屑中に埋め入れて輸送するにあり

●橙類浸出液貯藏法

新鮮なる橙類の外皮の浸出液に五乃至二十ペルセントの錯酸を加ふるにあり又時としては要求により砂糖を加ふることもあり此の如くしたるものは其香氣風味を損せざるなりと(以上二件工業雜誌)

●白痴と天才

天才と稱せらるゝものゝ中にて往々恩遇的性狀を有するもののあることは學者の唱導するところなり然れども今こゝに述べんとするところは幾多の白痴者中に往々天才的傾向を有するもののあることこれなり實に人類中の最劣等者たる彼等の集合せる白痴學校中たまく一藝一能に秀でたるもののあるときは格別に著しく人の注意を惹くものなり彼猫を畫くに妙を得るためCatz Raphadとまで呼たるゴットフライドマインドはクレチニズムス性白痴なりしと云ふ而も其畫は頗る珍重せられ爲めに多くの擬物を出すに至れり英獨國等の美術館に陳列せられたるマインドの作を見るもの誰か白痴の手になれることを想像することを得んや又ドクトルウキンスローの吾人に告ぐるところによれば氏の知れる白痴は全く愚鈍にして何の用をもなすことを得ざるにも拘らず過去十五年間某寺院に葬られたるものゝ姓名年齡及喪主の誰なるやをさへ記憶すと云ふ英國の某白痴學校にも亦其例とすべきもの少からず或兒童は殊に圖を引くことに長じまた他の一人は彫刻に妙を得たり數の計算

は概して彼等に困難なるにも拘らず一白痴は三位までの加法若くは乘法を課せらるゝときは暗算にて一瞬間に答をなし而かも精確にして過つことなし又他の一人に人の年齡を告ぐれば直に分に積りて何百何分何千分なりと答ふドクトルガッゲンバールも此類の數學者を有せしを以て試みにこれを數學教師となさんとせしも白痴者の悲しさにはこれを人に敎ふるの術を會得すること能はずして止みぬと云ふ余の知れる外國の一兒童は機關車の構造に精通すること驚くばかりにして他に何の爲すところもなき彼は終日機關車の構造を寫せる一冊の書（もとより讀むことを得ざるに）を手にし首を傾けて之が研究に餘念なし余は彼に日本の機關車は何式にして又其構造如何と質問せられ大に其答辯に窮したることあり又他の一人は船の構造を熟知するのみならず最も完全にこれが模型を製しこれを組立たりしがさしも複雜なる船中の設備も彼には左程にも感ぜざりしものゝ如しかくの如きの例實に少からず白痴の特徴として上來述べしところは悉く一人に見るべきものにはあらずと雖余はたゞ幾多の白痴者につき觀察したるものを概括してこゝにこれを述べしものなり云々と石井亮一氏は敎育公報に說かれたり

◉血淸療法の恩惠

實布的利亞血淸療法が到る處好果を齎らし本邦に於ても明らかに小兒性命救濟の効を奏しつゝあるは人の知る所なるが昨年巴里市に開かれたる萬國衞生會に於てルイ、マルタン氏の報告せる所に據れば巴里市にも亦該療法の恩惠に浴るゝことなく千八百九十年より九十四年に至る間巴里全市に於ては年々平均千四百三十二名の實布的里亞死亡ありしに血淸療法を開始したる九十四年には已に一千〇八名に減じ九十五年には大に減じて四百二十七名、九十六年には

四百五十四名、九十七年には三百名、九十八年には二百五十五名、九十九年には稍々増したるも三百五十四名に止まりしと云ふ即ち之を十年前に比すれば巴里一市にして實に一千七十八名の人命を救濟したるものにして佛蘭西全國に於ては大約一萬人の夭死を防ぎ得るの概算なりと云ふ佛國の如き人口増加の少なきを嘆賞する國柄にては此幼年者の生命救濟は一層其恩德を感ずること深かるべきなり

◉大阪のペストに就て

衛生局防疫課長內務技師髙木友枝氏は昨年來ペスト撲滅の爲大阪檢疫事務局へ出張中の處事務打合の爲め滯在約二週間の豫定を以て出張歸京せるが氏が大阪市のペストに就て語る處に依れば同市に於けるペスト病患者は昨年十二月廿七日以來未だ一人も發生せず頗る好結果なるも有菌鼠は未だ全滅に至らず然れども其割合は非常に減少し其の最も多數なりしは昨年三月にて斃鼠二十五疋中有菌十疋にして其割合四十プロセントに當りたるもの本年一月は捕獲せしものを合せて總數四千七百三十三疋中鏡檢の結果僅かに有菌のもの十二疋に過ぎず二月に至りては總數五千七百六十六疋の中有菌のもの十二疋にして同市の病毒も遠からず全滅の見込ありといふ

◉理髮師女髮結ひの健康診斷

警視廳に於ては從來府下市郡に於ける牛乳搾取營業者が黴菌結核症等に罹れる者を傭入るゝことを禁じ來りしが今度理髮營業者及び傭人、女髮結及び其傭人等も同樣其病氣あるものは營業を禁ずることゝなりしに付去る十六日より警察醫をして遍ねく健康診斷を行はしむる手筈なりと云ふ

◉浴場と便所の設備

從來東京市內に於ける湯屋即ち浴場に日々出入せる數萬の浴客は浴場の流場に於て痰唾或は放尿等を爲

す者往々ありしため先頃來赤坂芝の兩區に於ける浴場に於ては清潔法を保持するの目的を以て浴客に對し啖唾及放尿を禁じ夫々其旨浴場に掲げ浴客に注意せしめ居れるが其筋の調査に據れば近來浴客中特に小兒等には往々湯槽内に尿放するの形跡なきにしもあらず頗る疑はしきを以て至急湯屋營業者をして浴場内に便所の設備を爲さしめんとて警視廳に於ては昨今專ら取調中なりと云ふ

◉山根醫長の談片

山根醫長頃日歐米漫遊の歸途布哇島ホノルヽに寄港したるが氏は此の寄港の間觀察せし同島癩病患者幷に本邦醜業婦に關し左の如く語れり

布哇島に於ける癩病患者に對する病院の設備は尤も完整し殊に離隔室の如きは著るしく整頓せり聞く處に依れば本邦人の患者も四名この病院に收容され居れりと又同島に於ける本邦醜業婦は目下四百餘名の多きに達し殊に驚くべきは彼等より本邦に送り來る金額は一ヶ年一百万弗の多きに上ると云ふ

◉第二院の改築工事

彼の燒失彼の慘事の影響として大に其設計を改むる事と爲りぬ先づ二階建の計畫を變更して全く平家建に改め其要所々々には何人にても使用し得べき消火栓を裝置し每室非常ベルを備へ患者及附添人等に對し出火の際の如き此ベルを押す事に注意し置き異變ある節はベルの爲め直に事務室或は當直室等に一大警鐘の響く仕掛にして避難口も各所に設け置く筈なりと右は既に設計濟となりしものにも及ぼし殆んど全部の建築に改善を加ふると云ふ

◉衞生試驗所新築設計

東京市衞生試驗所は愈々東京市會に於て議決せられたるを以て右は直ちに同所新築敷地として東京府

農工銀行西側の地所四百二十坪を借用したき旨府廳に出願し許可となり次第構造の設計を爲し本月下旬起工する計畫なるが建築費は一萬百九十六圓なりと

●府下及横濱市傳染病

一月一日より二月二十八日迄の統計によれば東京府下傳染病患者腸チブス三十一、實扶垤利亞廿四、赤痢五、天然痘一名なり横濱市に於ては腸チフス三十一實扶垤利亞廿四、赤痢五、天然痘一名なり

●新嘉坡殖民地のペスト流行

久永領事よりの電報によれば二月廿七日新嘉坡領知事は當殖民地をペスト流行地と宣言せり該病患者は初發以來二名又虎列拉病患者三百廿三名ありと

近事片々

女學校の制服　女子服の改良は目下の急務今や女服改良會の起るあり●文部省三島衛生主事も昨今頻りに工夫をこらして考案中なり●年の暮より初春にかけては看護婦は總て閑暇なるに今年は相應に何れの看護婦會も忙はしといふ蓋し社會の看護婦需要の盛んになりし爲なるべし●電氣で夜具を暖む　倫敦の上流社會では夜具の間に金網を入れ置き之れに電氣を通じ常に思ふが儘の温度を夜具に保たしむる仕掛を爲すこと大に流行すと云ふ應用も又盛んなるかな●本邦食鹽の成分　農省務にて調査せし食鹽の成分表によれば日本の食鹽中にては長崎産第一にして體（鹽化ソーダ九一、二八六、鹽化加里二、七〇二鹽化苦土〇、一四〇　硫酸石灰〇、六〇四　硫酸苦土〇、九〇四にして鹽化ソーダの外他の物質の混入少

きをよしとす）之に次くは墨西哥なり然れども外國産には遠く及ばす（米國産鹽化ソーダ九七、三六三　鹽化加里○　鹽化苦土○、一八六　硫酸石灰○、八二一　硫酸苦土○）●世界人口の疎密　一平方「キロメートル」に對し埃及其一位を占め之に次ぐは白耳義、和蘭、大不列顛にして日本伊太利は殆んど同一の程度にあり其中位を占むるは獨逸にして人口稀少の部に移らんとするは佛蘭西及び匈牙利なり自然的生産物の豐かなるに比して人口少きは「ブラジル」なりといふ●遞信省にては滊車及び船舶に醫師を乘り組ましめ萬一の用に供せんため近日之に關する勅令出づべしと●又農省務省に於ても職工五十人以上を使役せる工場には嘱託醫を百五十人以上使役するものには常設醫を置かしむる議ありといふ●露國レスチウカシヤ孃は聖ピーターースボルク市にて藥局を開く可き許可を得たるが之を露國婦人の藥局開始の嚆矢とす孃は只婦人の助手のみを使用せんとの計畫なりと●佛國巴里の法廷に一婦人は「エッキス」光線に對する訴訟を提起したりソハ九回目迄は醫士の施術を受けしも十回目助手の爲めに翌朝より眼に腫物を生じ頭の右方に禿げを生じたるは無經驗によるものとし損害賠償を提出したりとチト六りなることなるべし●倫敦英國博物館に藏する一の木伊乃は上部埃及ナイル西岸より得たるものにして考證によれは世界第一の古骨なりと肉片及赤髮の一部付着しありといふ●倫敦にては眼鏡ミッションと云へる會あり視力不充分なる貧民に對し無代にて眼鏡を與ふものにて明治三十二年には一千人以上の男女勞働者に與へて職業を失はしめざりしと●頭髮の脫落を防ぐに一シコナ丁幾一、マンチンコー丁幾一、ジャボラン丁幾、蓖麻子油二、ラム酒一〇有大効ありと工業雜誌に出でしが何れ本會醫家に問合す積りです●婚

姻注意　早婚は戒むべし女子十六歳以上男子二十歳以上なるべし●男女年齢のあまり違ふは宜しからず病者の婚嫁は戒むべし●骨盤狭き女子の人に嫁ぐも又戒むべきことなり●近親の結婚固より不可なり

●自轉車は健全者に非ざれば乘用すべからず老人及少年女子は乘用せんとする前に醫師と協議すべし自轉車の競爭は極て害あり●過日牛込の神樂坂を通ると所謂御神樂藝者が袴も穿かず脛もあらわに乘り廻はせしが風俗壞亂の狀見るに堪へず之れに付けても婦人の服裝は早く改良したきものなり●東京市の尿溜桶を用ゐるものは目下大凡二十八萬軒ありと本年四月末日を限り悉く改良の筈なりといふ●横濱の末吉町は細民多き爲め衛生組合員の糞尿を其會費に充てんとの建議書を出せりと近事談片も下もにさかつて是でおしまい

●臺灣贊成員松住臨太郎氏よりの通信

一筆申上候東京の寒さは嘸かしと御察し申候臺北も本年は稀有の寒氣にて二月一日より際立ちて寒く相成り二月には霙交りの雨降り出し三日の夜の内は北の方にある大屯山の連峯は悉く五合目位迄眞白に雪積り申候三年前には新高山（西名「モリソン」と稱し本島第一の高山にして明治三十年六月二十八日本名に御命名ありたる山）の頂に雪降りたりとの話を承り候得共そは高山なるが故尤もの事と申居候處本年は美事にも遠に小富士の雪を眺めて身は東海道にある思ひ致し申候随て寒氣は例年に無き强さにて三十五六度に降りたる事もこれ有り候十三日の朝土人が薄氷片を桶に入れ珍らし相に荷ひ行くを見受け申候これは近邊にて結びたる初氷と相見へ申候又「マラリヤ」病の媒介者として醫學の問題に上りたる蚊の先生もこの寒にて羽がちゞみ上りたるか何れの隅へかちぢけ込みたるものと見へ年々寒中と雖も蚊帳を用ひざる夜は絶へてこれなきに昨今ばかりは蚊帳なくて全く安眠が出來申候若し學者の説通りならば蚊が居らぬから「マラリヤ」も來ないと安心が出來る筈であるが又外に「マラリヤ」取次をする者がなきにも限らねば油斷は最も危險なれども何に致せ今日の處蚊蟲に暇取らせ坐敷静かに眠り候は快き事に御座候。土人は雪や寒さは母國人の御土産なりと戯れ居る由承り候ソレに引換へ南淸や香港の「ペスト」が臺灣へ立寄り神戸大阪東京と荒れ廻るは寒心仕り候又近來大阪にては禿頭病（一名台灣坊主）と申し頭髪、眉毛の剝落つる一種の病氣流行致し候由東京にては牛込邊に其患者發生致し候とは誠に怪しからぬ事に御座候東京邊にて追く器械な想像すれば台灣は病源地なれば在住者の内にはから禿頭や、虫蝕頭、眉毛なしの

役者顔が市中で見受けらるゝかと思はれ候得共一向に左様な者は見へ不申候最も其病と思しき者二人程あることの事は早くに承り候へども新聞にて申す台灣坊主といふ程台灣に數多くある次第にはこれなく候去りし燈臺元暗しの笑と成るも餘り迂闊なる心得違の爲め其向きの人に承り候へは未だ數多の患者のあるにも無し流行とは認め申さぬ豫防としては理髪業を取締るより外はあるまじとの事に御座候右髪に付ての醫學上の事はいざ知らず實地目に觸れ候處にて當地に來りたる少壯の男子に白髪多きは事實に御座候知人の內半年餘り經はさる間に胡麻鹽頭に成りたる人二三人もこれあり候此人々はいづれもマラリヤ病を數回煩ひたる由に有之候へはマラリヤ病は白髪を害する如き事はなきやとの疑御座候兎に角當地に白髪者が多く認め候は懇意なる醫士も同感に御座候就ては黒髪變化の原因に付取調へ相付き候はゝ通知致すことに約束申置候間追ては通信の材料にて相成るへくと存候

二月二十五日の便船にて

◉衣服改良發起人會

我國婦人の体格と歐米婦人の体格との差は我國男子と彼國男子との比よりも更に一層の懸隔なり而して健全なる國民を作るには健全なる婦人を要するとなれば我國婦人の体格を奨勵する事は急務中の急務なり右に就き種々改良すべき點少なからざる中に婦人の服装の改良も其重なるものにして現今の女服にては到底衛生に適せぬ事は既に識者の認むる所にして殊に醫學博士弘田氏は熱心に此事を考究せられ昨年十一月中有志の婦人數十人と集會を催し種々協議の末女服改良會を設立する事に相談致され右審査すべき委員をも定められしが去る六日右委員會を大日本婦人教育會事務所に開かれ弘田氏初め委員澄尾作子鳩山春子高木鐐子山脇房子松前藤子清藤秋子三輪田眞佐子の諸夫人出席各自の考案を提出し熟議の上改良服の体裁は隨時進歩改良の餘地を存し置き差し當り上衣と下衣を別にし模様のものを着する事に一決せりこれより愈同志者を募り同會員はまづ其家族の女兒に之を實行せしめ尚會員自身も成可實行して漸次一般社會に普及せしめ其目的を達せん事を謀りしとぞ

◉看護婦の美談

去月大學第二醫院出火の際には數多き看護婦が能く其重大なる責任を盡し身を棄てゝ患者の救助に努力したるが中にも、相良せい子といふ看護婦の如きは一人にて三人の患者を助け其四人目の患者を救ひ出さんとする際、渦卷く煙のため頓に知覺を失し、患者を抱きたる儘その場に倒れたるが、猛火の爲めに全くその頭髮を燒かれ、丸坊主となりたり斯くと認めて馳せ來りし人々は之を助け、辛ふじて生命を萬死に救ひたるが、せい子の働きは拔群といふべし



大日本婦人衛生會記事

◉三月總集會

三月九日第二土曜午後一時より本會の總集會を麹町虎の門なる東京女學館講堂に於て開きたり午後二時總裁殿下御臨場遊はされたり席定まるや婦人の愛國者として近時有名となりたる奧村五百子には支那朝鮮の事情より延いて征淸軍兵の苦狀を説き終りに愛國婦人協會設立の事を述べられ次に醫學博士高橋順太郎君には滋養品の價値と云へる演題にて氏の精製せられたる肝油を示し會員の試嘗に供せられ次に警視廳第三部長山根正次君には洋行みやげと云へる演題にて歐洲の衞生事情より延いて服裝の事に及ぼし氏の新案にかゝる折衷服を當日令息令孃に着用せしめて説明せられたり其改良服は男女とも總べて筒袖にて膝迄の身の丈とし下に股引を穿ちて袴を附けしものにて男女多少仕立方を別にす外套の如きは歐洲の小兒服を折衷したるものなり（右服裝雛形は次號若くは同氏演説揭載の節挿圖すべし）役員改選は投票により演席の傍らに於て擧行し收支決算事務

報告等は掲示して會員に示し尚本會規則の一部を修正したること左の如し

第十條中　評議員二十名を二十五名とす

第十一條中　會長副會長幹事は公撰とし評議員は會長の特撰とす

第十四條中　役員年限一ヶ年を二ヶ年とす

右何れも満場異議なく通過し一同茶菓の接待ありて午后四時散會せしが當日役員には濱尾副會長、鳩山、高木、穂積、松平芳子、三浦、岡田、羽田、中濱、濱田、松前子爵夫人以下會員及女學館學生を併せて二百二十餘名の出席者ありたり

◉役員改選結果報告

仁禮會長には多年本會の會長として其効績少からざりしが一昨年來會長辭任の事を申出でられ本年は是非とのことにて初志動へすべくもあらず因りて今回は採點の數に加へざりき諸姉之を諒せられよ

會長　侯爵夫人　鍋島榮子
次點　濱尾作子

田中い代子
大隈綾子

副會長　濱尾作子
次點　鳩山春子
高木かう子
穂積歌子
西靜子

幹事（イロハ順）　鳩山春子
仝　男爵夫人　西靜子
仝　穂積歌子
仝　岡田徳子
仝　高木かう子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子
次點　中濱芳子
丹波貞子
羽田み緒子
宮本樂子

以上當撰せしを以て夫々承認を求めしが鍋島侯爵夫人以下何れも承諾せられたり但し西男爵夫人には目下依頼中なり評議員は改正規則により不日會長よ

り特選の上御依頼申すことゝなれり

寄附

金壹圓　濱田拾子

右は本年福引の際寄附せざりしをもて今回寄附せられたり

●大日本婦人衞生會
收支決算報告

自明治三十三年三月至明治三十四年二月

收入之部

一金四百五圓參拾參錢六厘　前年度より繰越高

一金貳千參拾四圓八拾參錢五厘　本年度收入高

計金貳千四百四拾圓拾七錢壹厘

内譯

金千四百四拾五圓參拾壹錢五厘　會費

金五百八拾八圓七錢　寄附金及懇親會費廣告料

金壹圓四拾五錢　當座預金利子

支出之部

一金千七百七拾圓七拾壹錢七厘　本年度支出高

内譯

金參百五拾五圓五拾七錢七厘　報酬及雜給

金九拾七錢　備品費

金八百貳拾壹圓九拾壹錢七厘　圖書及印刷費

金貳拾壹圓貳拾貳錢四厘　筆紙墨文具

金壹圓五拾壹錢　消耗品

金九拾八圓四拾五錢四厘　通信運搬費

金百八拾圓五拾六錢七厘　集會費

金拾五圓　旅費

金貳百七拾五圓五拾錢　雜費

收支差引

一金六百六拾九圓四拾五錢四厘　殘高

本會財產調

一金六百六拾九圓四拾五錢四厘　現在高

内譯

金參百圓　三井銀行預金

金百九拾圓　東京貯蓄銀行預金

金百七拾九圓四拾五錢四厘　手元殘金

以上

現在會員數調

總會員數　千七百貳人

内譯

府下終身會員　三拾九人

仝　賛成員　九十三人

仝　通常會員　六百六十人

地方終身會員　九人

仝　特別會員　十三人

仝　賛成員　三十二人
仝　通常會員　三百六十九人
新潟支會員　二百四十人
千葉　仝上　二十六人
山形　仝上　六十五人
宇都宮　仝上　三十九人

右報告候也

明治三十四年三月　私立大日本婦人衛生會

◎第二醫院看護婦長よりの謝状

謹て御禮申上候　今般はからざる災厄にかゝり申候に付て御懇篤なる御恵みをあづかり誠に難有く一同感涙にむせび居り申候早速御禮状をさし上申候筈の處日々取込み居候ために誠に延引さ相成候へ共一同に代りて御厚禮申上候

あなかしこ

三月廿一日

第二醫院看護婦長
長妻小春
鈴木譲ゝ
高野京

大日本婦人衛生會御中　河崎しづ

東京帝國圖書館よりの來書

貴會婦人衛生雜誌　御出版相成候處右は學術參考上有益のものに可有之に付本館に備付け公衆の閲覧の便に供し度候間可成御部合を以て寄部御寄贈の運に相成候樣致度此段及御依頼候敬具

明治三十四年三月廿七日

東京帝國大學附屬
圖書館長　和田萬吉

本會編輯部宛

追啓　寄贈書籍には從來の通り寄贈者の氏名を記入せる貼紙を貼付して購入圖書と區別し永久感謝の意を表明可致候

一購求豫算大學に圖書館に圖書室の設有之候間御差繰の上貴部御寄贈相成下候はゞ內容部は同室に備付け本館同樣の手續を以て永遠に保存可致候

宇都宮支會記事

◎第一回開會報告

宇都宮支會幹事　中島とみ子報

本月三日宇都宮市高等女學校に於て發會式を行ひ式辭ありて次に本會々長代理し新潟出張中の支會々長より贈られたる祝辭を代讀し直ちに講話に移り第一席淺田講師衛生の話第一席同氏傳染病第二席藤中里編三郎氏育兒法第四席講師長野榮三氏救急法と云ふ科題にて各其緒論を演られたり此日出席會員三十八名傍聽者四拾二名衣服は何れも極めて質素開會は午後一時十五分閉會は豫定の通り正四時なりし

◎通信

本支會々長講師知事夫人は疾くより支會設立を希望し居られたるに此度彌成立したるを悦び金圓物品を寄附し又たは會用の爲めに召使の者を使役するなど熱心に盡力せられ發起人諸氏も皆な能く會の爲めに盡力せられつゝあり當支會にて會員募集などしてに義理にて入會する人なしとも限らねば只た會員が各自の別懇なる人々に會の模樣など話すのみにて勸誘は一切致さずされど追々入會者も多く相成本會員の外に支會々員も五六名あり

斯くして何會十人前後の新入會者あれば數年の後あには中々盛大になるべく隨て財政も整ひて基礎強固なる會となるべしとの見込なり

◎本會入會者（第二第三入會者各姓尾により）

○横濱　日能てる子紹介

●宮城縣角町東　通常會員　佐村美き子

○北多摩郡　島幸子紹介

●北多摩郡拜島村字上宿　通常會員　秋山利子

●仝所　通常會員　榎本園子

●仝所　通常會員　田中さき子

○對馬　清水住江子紹介

●對馬國嚴原中村町十五番戸　通常會員　鹿野とめ子

●對馬國嚴原宮谷町六十六番戸　通常會員　遊江伊勢子

○小石川區　牧野花子紹介

●岐阜縣海津郡東江村字大和田　通常會員　安田定子

○八王子　和田好枝子紹介
●南多摩郡[illegible]　通常會員　[illegible]こま子

○本郷區　鈴木八重子紹介
●本郷區[illegible]町[illegible]番地　通常會員　[illegible]田[illegible]子

○本郷區　[illegible]信子紹介
●醫科大學[illegible]看護婦　通常會員　田坂[illegible]子
●第一醫院外科看護婦　通常會員　村井たか子
●仝所　通常會員　山田やゑ子
●仝所　通常會員　鈴木すゞ子
●仝所　通常會員　[illegible]信子
●仝所　通常會員　赤堀[illegible]江子
●第一醫院小兒科看護婦　通常會員　[illegible]たか子

○日本橋區　樋口八重子紹介
●本郷區湯島天神町三丁目三番地　通常會員　東宮富子
●淺草區西鳥越町三番地横山茂太郎方　通常會員　山本繁子
●淺草區猿若町一丁目十二番地　通常會員　大澤喜代子
●下谷區徒士町二丁目六十六番地　通常會員　香山芳子

○淺草區　鬼貫ふく子紹介
●千葉縣印旛郡布鎌村小川周助方　通常會員　宮本いく子

○本所區　宇[illegible]かつ子紹介
●本所區外手町八十八番地　通常會員　鈴木きつ子

○淺草區　米本のゑ子紹介
●淺草區[illegible]町二十四番地　通常會員　白瀬鶴江子

○牛込區　北代竹子紹介
●牛込區矢來町三番地[illegible]十六號　通常會員　上野[illegible]子

○牛込區　鈴木うめ子紹介
●[illegible]六十八番地　通常會員　橋本[illegible]子

○牛込區　戸川信子紹介
●四谷區須賀町三十五番地　通常會員　戸川操子

○京橋區　荻原さめ子紹介
●下谷區竹町十一番地[illegible]方　通常會員　多部ちう子

○日本橋　前田富美子紹介
●府下荏原郡大井村字[illegible]　通常會員　横田あき子

○事務所申込
●大阪[illegible]町[illegible]二十番地　通常會員　波多野てる子
●栃木縣[illegible]町[illegible]　通常會員　近藤てい子
●麹町區内幸町一丁目三番地胃腸院　賛成員　[illegible]善重郎君
●日本橋區[illegible]三丁目十一番地丙八號　賛成員　板倉敬二郎君
●麹町區永田町二丁目三十番地平林方　通常會員　新井和歌子

●府下荏原郡目黒村ビール會社構內　通常會員　橋本直津子
●[illegible]町一丁目二十七番地　通常會員　守隨さよ子
●日本橋區本銀町四丁目九番地　通常會員　高木こう子
●日本橋久松町卅九番地有[illegible]舘　通常會員　館岡きん子
●全所　通常會員　井上なか子
●全所　通常會員　長谷川むめ子
●全所　通常會員　喜多村ちか子

◉新潟支會入會者

○支會長　長井さと子紹介
●新潟市西堀通　通常會員　大竹八重子
○幹事　江上ふさ子紹介
●新潟市上旭町　特別會員　加藤ひな子
○評議員　池原きん子紹介
●新潟市新發田町　通常會員　桂　千代子
○會員　酒井とよ子紹介
●新潟市白山浦　通常會員　近藤よね子
○會員　塚野まさ子紹介
●新潟市白山浦　通常會員　内部より子

◉山形縣支會入會

○加藤隆子紹介
●山形市新築　特別會員　龜山里子

○甲府　武藤秀直君紹介
●山梨縣病院藥劑士　贊成員　大島秀人君
●甲府市代官町二十六　贊成員　長田伊佐君
○甲府市　磯太きえ子紹介
●甲府市百石町四番方　通常會員　志賀りか子
○甲府市往田千貞君紹介
●甲府市新紺屋町　通常會員　野澤との子

◉臺灣松住氏通信

○臺灣四倉ゆう子紹介
●臺灣臺北城內東門街四丁目第八號四番　通常會員　小出うた子
○臺灣　田村まさ子紹介
●臺灣臺北城內東門街內第一號官舍九番田村方　通常會員　荻野まさ江子
●臺灣臺北[illegible]部第二十八號官舍　通常會員　原口きつ子
○臺灣　青木いろ子紹介
●臺灣臺北城內東門街四丁目八番戸　通常會員　川口みつ子

◉追加本會入會者（第二）

○幹事　嶋山春子紹介
●芝區金杉濱町六番地　通常會員　潮田千勢子
○評議員　松平充子紹介
●神田區錦町三丁目十五番地　通常會員　三輪田眞佐子

○日本赤十字社　萩原たけ子紹介

●豐多摩郡中野村五百七十三番地　通常會員　寺木谷子

●仝所　通常會員　田中梅子

○牛込（一）杉山わかな子紹介

●美濃國安八郡神の町　通常會員　杉山千代子

○會員種類變更

●清國牛莊　清通常會員　終身會員　中村久良子



轉居

會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所宛必ず御一報相願度候

●上野國高崎衞戍病院内へ　星野きよ子
●滋賀縣警部長官舎へ　內村きん子
●山口市山口高等女學校へ　溝淵こまゑ子
●牛込區築土前町三十三橋本方へ　塚本靜江子
●麹町區中六番町十番地へ　和田垣つな子
●麻布區材木町十番地へ　佐々木順子
●東京日本赤十字社病院内へ　五十嵐きく子
●天鹽國増毛郡町立増毛病院内へ　大木うん子
●長崎市豐渡町官舎へ　馬淵よし子
●奈良縣添上郡佐保村字法蓮第八番地へ　管雪子
●神田區猿樂町十二番地小林方　矢野德代子
●日本橋區南茅場町十二番地　松村鐘子
●神田區錦町三丁目六番地　熊澤しま子
●赤坂區青山北町六丁目三十三番地　石光佐家子
●牛込區築土前町十番地へ　喜多村歌子
●牛込區北山伏町二十三番地へ　林靜子
●秋田市中龜ノ町五番地へ　神林久美子
●熊本市京町本町四十二へ　佐藤さん子
●小石川區久堅町三十七番地へ　山川二葉子
●清國上海日本領事館へ　小田切桂子

次の頁に
尙入會者
姓名あり





◎第三本會入會者

○幹事　鳩山春子紹介

●麻布飯倉五丁目五十六番地　特別會員　岩下ゆか子

○日本橋　樋口八重子紹介

●芝區田町六丁目十四番地　通常會員　安藤光子

◉甲府武藏氏通信

○武藏秀直君紹介

●山梨縣東八代郡下曾根村　通常會員　出月たか子

●仝　仝　都藤野村　通常會員　中澤つる子

●甲府市若松町　通常會員　今井えん子

●山梨縣八代郡南八代村　贊成員　加々美紀作

●仝所　通常會員　加々美はつ子

●山梨縣東八代郡上林村百二十六番戸　贊成員　高山新松作

●仝所　通常會員　高山くら子

○贊成員　長田伊佐美君紹介

●山梨縣東八代郡下曾根村　贊成員　長田準平君

●仝所　通常會員　長田れい子

◉住所不明者

御承知の御方は乍御手數御一報被下度候上部の宿所は元の宿所

芝愛宕町　林　美の子
麹町　山田登利子
牛込　小篠もと子
芝　岡部小春子
京橋　小林きの子
四谷　本郷いく子
神奈川　松尾榮枝子
京橋　高松よし子
神田　牧田につ子
彦根　市尾はつ子
小石川　酒見ふさ子
麹町　小田まつ子
第一醫院　高橋千代子
函館　村上ちた子
麻布　尾關つる子
芝　伊東ゆき子
芝　森　こと子
麹町　山本えい子
臺灣　村山ちよ子
上州澁行　▲植村千代子
麻布飯倉　矢▲島とら子
神田　山本まつ子
向島？　中島いの子
臺灣行　伊藤てつ子
國行　淺野きく子
大阪　久徳きよ子
麻布　土川たつ子
秋田　岸　たき子

（未完）

◉御斷

本誌發行の義編者感冒の爲めいつもより發行日延期相成申候此後は成るべく早く發行可仕候間宜敷御諒察わらんことを請ふ

東京帝國大學第一醫院寄附

決算報告

收入

一金百八拾圓十九錢　　會員諸氏義捐總高

支出

一金百七十八圓　　本會第二號義送高

差引

殘金貳圓拾九錢也

右義捐金に對して本會は御一人に付貳拾貳錢づゝの御寄附相願候處別項の如く超過額に相成誠に感謝の至に堪へさるなり尚右收支決算の殘金及び決算後御寄送の分等は追加として本會第一號義送金五拾圓の補充可仕候間右に御了承わらんことを乞ふ

東京帝國大學第一醫院寄附連名

◉麴町區

金壹圓　男爵夫人加藤　鈴子
金五十錢　上原　豐子
金五十錢　井上　むつ子
金三十錢　岡田　總子
金三十錢　加藤　常子
金二十二錢　吉武　輝枝子
金廿二錢　公爵夫人鷹司　順子
金貳圓　子爵夫人松平　正子
金二十二錢　藤原　のぶ子
金壹圓　高木　かう子
金五十錢　三井　晴子
金二十二錢　三井　五十子
金壹圓　足立　清子
金壹圓　松村　榮子
金二十二錢　馬屋原　ひさ子
金二十二錢　長崎　多惠子
金五十錢　中濱　芳子
金三十錢　伊集院　たけ子
金貳圓　山本　多穗子
金貳圓　侯爵夫人鍋島　榮子
金三十錢　弘田　鉦子
金三十錢　岡山　とし子
金壹圓　松井　倫子
金三十錢　男爵夫人伊東　やへ子
金三十錢　岩橋　とき子
金二十二錢　岩崎　こゝ子
金三十錢　早川　純子
金五十錢　橋本　貞尾子
金三十錢　原　みつ子
金三十錢　西尾　京子
金二十二錢　富田　のり子
金五十錢　長郷　千代子
金五十錢　男爵夫人神山　まさ子
金五十錢　河本　かめ子
金二十二錢　河原　久子
金二十二錢　信川　豐代子
金三十錢　武富　すみ子
金二十二錢　高瀬　さと子
金二十二錢　高島　なを子
金二十二錢　佃　うめ子
金三十錢　津田　仲子
金二十二錢　中尾　近子
金二十錢　長田　しき子
金二十二錢　奈良　かな子
金二十二錢　中澤　しゆく子

金五十錢　侯爵夫人[illegible]　千代子
金三十錢　內川　むめ子
金二十二錢　植木　ひら子
金二十二錢　岡野　いく子
金二十二錢　小山田　かね子
金二十二錢　大谷　てう子
金二十二錢　星野　とく子
金二十二錢　大島　つい子
金三十錢　大橋　小菊子
金二十二錢　久住　たい子
金三十錢　矢守　つや子
金二十二錢　矢島　いね子
金二十二錢　矢野　ふみ子
金二十二錢　松木　えい子
金二十二錢　松木　武米子
金三十錢　松平　貞子
金二十五錢　船見　みき子
金三十錢　福島　たか子
金廿二錢　公爵夫人近衞　もと子
金二十五錢　米井　鶴松子
金二十二錢　齋藤　よし子
金二十二錢　相原　ひさ子
金二十二錢　榊　賢子
金二十二錢　阪本　房子
金二十錢　櫻井　かま子

金二十二錢　佐々　道[illegible]子
金五十錢　澤　とよ子
金三十錢　森島　美の子
金二十二錢　吉岡　とみ子
金二十五錢　島崎　たけ子
金二十二錢　鶴田　てる子
金二十五錢　侯爵夫人西鄕　清子
金二十二錢　白井　きん子
金二十二錢　志賀　かま子
金二十二錢　日高　りき子
金二十二錢　廣瀬　りき子
金二十二錢　鈴木　つる子
金五十錢　馬渡　たま子
金二十二錢　駒井　まさ子

小計金參拾貳圓參拾七錢

◎神田區

金五十錢　西邑　せつ子
金壹圓　加藤　森路子
金壹圓　宇津木　しげ子
金五十錢　三浦　教子
金壹圓　子爵夫人秋元　宗子
金壹圓　宮本　樂子
金壹圓　男爵夫人岩崎　早苗子
金二十二錢　佐藤　梅榮子
金二十二錢　佐々木　芳子

金二十二錢　金杉　信子
金五十錢　濱田　鈴子
金壹圓　五十嵐　つね子
金二十二錢　伊藤　喜美榮子
金五十錢　男爵夫人池田　甲子子
金二十二錢　一井　てい子
金二十二錢　今井　きく子
金三十錢　林　さく子
金二十錢　原　まさ子
金五十錢　穂積　さい子
金三十錢　堀口　みき子
金二十二錢　堀　かた子
金二十二錢　堀内　ゑん子
金壹圓　神田　德子
金二十二錢　河崎　はる子
金五十錢　山永　つね子
金壹圓　田村　てう子
金五十錢　田中　こう子
金五十錢　竹內　しよう子
金二十二錢　田所　三辰子
金五十錢　立川　よね子
金二十二錢　舘野　しげ子
金二十二錢　內山　くら子
金二十二錢　內田　すま子
金二十錢　大澤　とよ子

金二十二錢　大井　まさ子
金三十錢　山岸　よし子
金二十二錢　矢野　德代子
金壹圓　後藤　わさ子
金二十二錢　小林　すて子
金五十錢　三浦　のぶ子
金二十二錢　新井　字子
金二十二錢　太田　鶴子
金二十五錢　佐藤　俊子
金二十二錢　清水　うへ子
金二十五錢　篠塚　たけ子
金二十二錢　清水　たけ子
金二十二錢　脇[illegible]　千代子
金二十二錢　岡谷　たま子
金五十錢　鈴木　みち子
金二十二錢　須田　すゞ子
金五十錢　高橋　清子

小計金貳拾參圓九拾八錢

◎日本橋區

金二十二錢　山崎　むつ子
金二十二錢　高橋　瑞子
金二十二錢　安達　かつ子
金二十二錢　長井　とし子
金二十二錢　長井　くら子
金壹圓　樋口　八重子

金二十二錢　大森八重子
金二十二錢　石黒きく子
金二十二錢　林つる子
金二十二錢　林この子
金二十二錢　細田とり子
金二十二錢　森つゞ子
金三十錢　若林かね子
金二十五錢　粕谷たけ子
金二十二錢　高橋とき子
金二十二錢　立石はる子
金二十二錢　高梨りん子
金二十二錢　竹内いせ子
金二十二錢　塚原梅子
金二十二錢　中村なか子
金二十二錢　瀧川くに子
金二十二錢　棟方もゝよ子
金三十錢　牛山竹代子
金二十二錢　鮎澤糸子
金二十二錢　大井川貝子
金二十二錢　太田銀子
金二十二錢　前田富美子
金二十二錢　古矢かま子
金二十二錢　深山すつ子
金二十二錢　後藤はつ子
金二十二錢　近藤いく子

金二十二錢　海老原こう子
金二十二錢　香山光子
金二十二錢　宮田鶴子
金二十二錢　篠原みち子
金二十二錢　杉浦いと子
金二十二錢　須田きよ子

小計金九圓拾六錢

●京橋區

金二十二錢　宮下咲子
金廿二錢　男爵夫人西郁子
金二十二錢　福原とく子
金二十二錢　森岡きみ子
金二十二錢　大岡發子
金二十二錢　石崎ひさ子
金二十錢　飯島鶴子
金二十二錢　石川さだ子
金二十錢　橋本くら子
金二十二錢　萩原この子
金二十二錢　新山きく子
金二十二錢　吉田賢子
金二十二錢　吉松春賀子
金二十二錢　多田なほ子
金二十二錢　高岡波子
金二十二錢　高崎妙子
金十錢　津島てい子

金二十二錢　杉木ゆき子
金二十三錢　太田もと子
金二十二錢　山本たま子
金二十二錢　松井やん子
金二十二錢　安藤てつ子
金二十二錢　秋田治子
金二十二錢　佐伯すゞ子
金二十二錢　坂本千代子
金二十二錢　齋藤政子
金二十二錢　白神しげ子
金二十二錢　關すゞ子
金二十二錢　鈴木むは子

小計金六圓三十八錢

●芝區

金二十二錢　仁禮壽賀子
金二十二錢　園田きん子
金二十二錢　清岡とよ子
金壹圓　三井曉子
金二十二錢　今村家壽子
金二十二錢　久松貞子
金二十二錢　石河里子
金二十二錢　磯部鉄子
金廿二錢　伯爵夫人板垣きぬ子
金二十二錢　入澤きみ子
金二十二錢　市村三保子

金二十二錢　伊藤きく子
金二十二錢　八田てつ子
金二十二錢　本多りく子
金二十二錢　渡邊錦子
金二十二錢　渡邊松子
金二十二錢　川上やす子
金二十二錢　加藤きく子
金二十二錢　加藤きよ子
金二十二錢　加藤殿子
金二十二錢　加藤みよ子
金二十二錢　吉原かや子
金二十二錢　吉澤みつ子
金二十二錢　武田よし子
金二十二錢　長野敏子
金二十二錢　上村き代子
金二十二錢　柿木まさ子
金二十二錢　野沼垣たき子
金二十二錢　緒方芳子
金二十二錢　大西郁子
金二十二錢　岡村しげ子
金二十二錢　奧山とし子
金二十二錢　大木次子
金二十二錢　山田そ代子
金二十二錢　山岡せい子
金二十二錢　山際はる子

金二十二錢　山田くめ子
金二十五錢　山口せき子
金二十二錢　松山信子
金二十二錢　牧かね子
金二十五錢　町田ゑい子
金三十錢　藤羽開子
金二十二錢　小桑すが子
金二十二錢　近藤花子
金二十二錢　蘆田操子
金二十二錢　阿部俊子
金二十二錢　新井とよ子
金二十錢　渡邊れん子
金二十二錢　齋藤せん子
金二十二錢　佐藤歌子
金二十錢　佐々木貞子
金二十二錢　齋藤ふく子
金二十錢　岸浩子
金廿二錢　子爵夫人湘岡かく子
金二十二錢　木村ふみ子
金二十二錢　三浦鈴子
金二十二錢　三堀千代子
金二十二錢　宮崎露子
金二十二錢　下村ちと子
金二十二錢　神宮司富子
金二十二錢　篠原さだ子
金三十錢　菅豐子
金二十二錢　須田[illegible]代壽子
金二十二錢　内藤千代子
金二十錢　上野幾子
金二十二錢　高山愛子
金二十二錢　岡田佐用子

小計金拾五圓七拾四錢

●麻布區

金壹圓　侯爵夫人川村春子
金五十錢　田中さら子
金五十錢　男爵夫人南部隈子
金二十五錢　松本芳子
金五十錢　男爵夫人本多梅子
金三十錢　山地謙子
金二十二錢　岩島華子
金二十錢　三村ひさ子
金二十二錢　井上光子
金二十錢　池田千代子
金二十錢　池田さき子
金二十一錢　門野駿子
金二十錢　河合なよ子
金二十二錢　吉野律子
金二十二錢　毛利和歌子
金二十二錢　立川貞子
金二十二錢　毛利のぶ子
金二十二錢　田村ふさ子
金貳圓　正木とよ子
金三十錢　中島銀子
金二十二錢　神さよ子
金五十錢　尾關つる子
金二十二錢　小倉しげ子
金二十二錢　岡崎き代子
金二十二錢　大石花子
金二十二錢　松崎すゞ子
金二十二錢　藤岡千勢子
金二十二錢　福永滋子
金二十二錢　兒島悦子
金二十二錢　淺井梅子
金二十二錢　實吉れん子
金二十二錢　永濱駒子
金二十二錢　三島わか子
金二十二錢　森園子
金二十二錢　鈴木てる子
金二十二錢　長與そ乃子

小計金拾壹圓七拾五錢

●赤坂區

金二十二錢　多久ちゑ子
金二十二錢　羽田三枝子
金廿二錢　侯爵夫人黒田清子
金廿二錢　男爵夫人川口直子
金二十二錢　徳富靜子
金二十二錢　岩野幾世子
金二十二錢　石黒すま子
金二十二錢　石田くめ子
金二十二錢　石川たき子
金二十二錢　橋本ちせ子
金二十二錢　長谷川たよ子
金二十二錢　新山雅樂子
金二十二錢　本多てい子
金二十二錢　澁谷保子
金二十二錢　高山らく子
金二十二錢　野崎せい子
金二十二錢　大井上かね子
金二十二錢　柳川兆磯子
金二十二錢　岡谷かね子
金二十二錢　岡崎敏子
金二十二錢　厚東霞郁
金二十二錢　小濱ゑい子
金二十二錢　相原濱子
金二十二錢　進みち子
金二十二錢　進とし子
金二十二錢　柴田鶴子
金二十二錢　島津治子
金二十二錢　水尾しげ子
金二十二錢　鈴木八重子

金二十二錢 太田 たつ子
小計金六圓六拾錢

●四谷區

金五十錢 伯爵夫人松平 光子
金壹圓 勝間田千代子
金五十錢 相馬 睦子
金二十錢 尾崎 いと子
金二十錢 稲垣 かつ子
金二十五錢 石川 さだ子
金三十錢 伊藤 こう子
金二十五錢 河野 きし子
金二十二錢 財部 さわ子
金二十二錢 内山 訓子
金二十二錢 野崎 わか子
金三十錢 山上 よし子
金二十五錢 吉川 とめ子
小計金四圓四拾壹錢

●牛込區

金廿二錢 伯爵夫人大隈 綾子
金二十二錢 鍋谷 梅子
金壹圓 長谷川 仲子
金壹圓 穂積 歌子
金壹圓(外十二錢) 松前 藤子
金五十錢 外山 ふさ子
金二十二錢 大隈 熊子
金五十錢 菅池 みね子
金五十錢 竹居 雅子
金壹圓 松平 喜代子
金二十二錢 岩居 しげ子
金三十錢 木場こゆり子
金五十錢 竹田 しん子
金二十錢 伊藤 孝子
金二十二錢 坂谷 琴子
金二十錢 井田 みね子
金二十二錢 石黒 とせ子
金二十錢 石坂 きよ子
金壹圓五十錢 林 竹子
金三十錢 林 靜子
金三十錢 橋本 謹子
金二十二錢 西川 ふみ子
金二十二錢 西野 菊子
金二十二錢 本莊 すゞ子
金二十二錢 別府 ゆか子
金三十錢 豐島 清子
金二十二錢 戸川 信子
金二十錢 富永 のぶ子
金二十二錢 河合 きん子
金壹圓 川田 みつ子
金二十二錢 金坂 すゞ子
金二十錢 河村 千代子
金三十錢 河村 よし子
金二十二錢 川添 はる子
金二十二錢 四方 ゑい子
金二十二錢 吉武 あい子
金三十錢 高山 さき子
金二十二錢 田淵 居壽子
金五十錢 田中 とよ子
金二十二錢 谷森 操子
金二十錢 高木 やす子
金二十二錢 鶴見 千代子
金二十二錢 根村 鏡子
金二十二錢 中野 うめ子
金二十二錢 中村みつな子
金二十二錢 南部 靜枝子
金二十二錢 中山 樂子
金二十二錢 村井 はる子
金二十二錢 村木きくゑ子
金二十二錢 宇多 きよ子
金二十二錢 大塚いわほ子
金二十二錢 小田川みつ子
金五十錢 大谷 政子
金二十二錢 岡崎 いし子
金二十二錢 小川 まつ子
金五十錢 山川 二葉子
金二十二錢 山田 文子
金三十錢 松本 貞子
金三十錢 松木 いさ子
金三十錢 福原 はな子
金三十錢 福原 清子
金二十二錢 藤森 若枝子
金三十錢 吉澤 信子
金二十二錢 兒玉 ちよ子
金二十二錢 神足 とも子
金二十二錢 青戸 さく子
金五十錢 青木 すみ子
金二十二錢 安藤 さく子
金二十二錢 安藤 秀子
金二十二錢 武田 村子
金三十錢 北代 竹子
金三十錢 多喜村 歌子
金二十二錢 志賀 鶴子
金三十錢 集堂 みつ子
金二十二錢 篠野 留江子
金二十二錢 志岐 久子
金二十二錢 廣瀨 賢江子
金五十錢 森安 かた子
金二十二錢 杉山 わか子
金五十錢 飯田 幸子
金二十二錢 塚本 郁江子
小計金貳拾六圓九拾四錢

小石川區

金參圓 濱尾作子
金貳圓 鳩山春子
金壹圓 三井捨子
金二十二錢 筒井梅野子
金五十錢 三宅ふじ子
金五十錢 長谷川てう子
金三十錢 穗積松子
金五十錢 山口てい子
金二十五錢 坂谷こと子
金二十錢 濱欽子
金二十五錢 石川さの子
金二十錢 磯邊よし子
金二十五錢 井ノ口たず子
金五十錢 作よし子
金壹圓 渡邊なつ子
金二十五錢 中村蕃子
金二十二錢 宇都宮たか子
金五十錢 大河内榮子
金五十錢 久保田八重子
金二十錢 牧野英子
金五十錢 寺田恒子
金五十錢 三浦とめ子
金五錢 三崎とめ子
金五十錢 杉浦久壽猪子
金二十錢 武井はつ子
金二十錢 須田いま子

小計金拾貳圓四拾七錢

本郷區

金參圓 小濱眞子
金貳圓 石崎つる子
金廿二錢 侯爵夫人前田訓子
金五十錢 飯田たつ子
金二十錢 片山かね子
金二十二錢 榊游子
金貳圓 緒方惊子
金壹圓 菊池たつ子
金五十錢 青山榮子
金二十錢 男爵夫人野田すみ子
金二十二錢 佐藤らく子
金五十錢 古市こう子
金二十二錢 辻さよ子
金二十二錢 佐藤こほ子
金二十錢 森さい子
金壹圓 關川京子
金二十二錢 石井その子
金二十二錢 岩永きと子
金二十二錢 今村米子
金二十二錢 伊東たき子
金二十二錢 今田初子
金五十錢 靚のぶ子
金二十錢 服部もと子
金二十二錢 和田英子
金二十二錢 吉原ふじ子
金二十二錢 田口つる子
金二十錢 高谷つな子
金五十錢 田村きよ子
金二十二錢 高橋蕃子
金二十錢 坪井なな子
金二十二錢 中島たけ子
金二十二錢 大澤さく子
金二十二錢 岡澤わか子
金二十二錢 大久保晃子
金二十二錢 岡田ひで子
金二十二錢 矢部いさ子
金二十錢 子爵夫人松平鈴子
金二十二錢 眞水宗子
金二十二錢 町野こま子
金二十二錢 松波好子
金三十錢 松永くに子
金二十二錢 近藤幸子
金二十二錢 越智鶴子
金二十二錢 小山花子
金二十二錢 小林さだ子
金二十二錢 [illegible]なつ子
金二十二錢 齋田さき子
金五十錢 齋藤竹子
金二十二錢 北川はな子
金二十二錢 木下いく子
金二十二錢 下河邊千代子
金二十二錢 廣井つな子
金二十二錢 杉本滿莉子
金二十二錢 竹村てい子
金二十二錢 前田照子

小計金拾九圓貳拾四錢

下谷區

金三十錢 原れい子
金二十二錢 犬養かつ子
金二十二錢 早川花子
金二十二錢 二宮めぐり子
金二十二錢 和田ふく子
金二十二錢 横畑乙二子
金二十二錢 築山かう子
金二十二錢 根岸かな子
金二十二錢 中村しげ子
金二十二錢 大森くめ子
金二十二錢 篠野しげ子
金二十二錢 牧野文子
金二十二錢 丸茂むめ子
金二十二錢 [illegible]

金二十二錢　松澤　安子
金二十二錢　藤牧　ふじ子
金二十二錢　荒木　てつ子
小計金參圓八拾貳錢

●淺草區

金二十二錢　大谷　嘉納子
金二十二錢　岩田　晴子
金二十二錢　片岡　保子
金二十二錢　花房　愛子
金二十二錢　青木　すゞ子
金二十二錢　瀧野　とく子
金二十二錢　原田　みつ子
金二十二錢　西田　訓
金二十二錢　ゆき子
金二十二錢　門井　愛子
金二十二錢　永井　つる子
金二十二錢　湖田　春子
金二十二錢　野口　かう子
金二十二錢　山路　光子
金二十二錢　山崎　てつ子
金二十二錢　有山　ふき子
金二十二錢　鬼頭　ふく子
金二十二錢　宮田　龜有子
金二十二錢　田中　たか子
小計金四圓四拾八錢

●深川區

金二十二錢　鹿島　琴子
金二十二錢　谷崎　直子
金二十二錢　林田　曉子
金二十二錢　酒井　八重子
金二十二錢　野々宮三代子
金二十二錢　井澤　ろく子
小計金壹圓參拾貳錢

●本所區

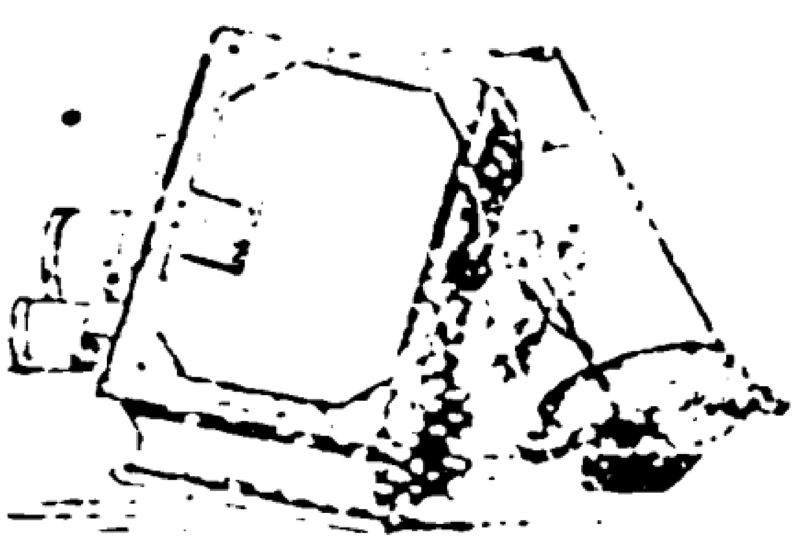
金廿二錢　子爵夫人牧野　美子
金二十二錢　本多　幸子
金二十二錢　本間　ふし子
金二十二錢　磯部　つや子
金二十二錢　芳賀　みつ子
金二十二錢　吉田　こう子
金二十二錢　津田　かめ子
金三十錢　村山　すゑ子
金壹圓　宇敷　かつ子
金二十二錢　岡田　せん子
金二十二錢　栗原　いね子
金二十二錢　深津　せい子
金二十二錢　岸田　しり子
金二十二錢　鈴木　喜代子
金二十二錢　須崎　とき子
金二十二錢　石山　豐子
金五十錢　山本　きよ子
小計金四圓八拾八錢

合計百八拾圓拾九錢也

●追加

金二十二錢芝宿谷　徳川　知子
金二十錢　芝　齋藤　春子
金三十錢　小石川原　靜子
金二十二錢　日本橋畑田　いわ子
金二十二錢　仝　金子　とき子
金二十二錢　仝　岡野　かく子
金二十二錢　京橋　武田　みき子
金二十二錢　牛込　島貝　ろく子
金二十二錢　牛込　川地　遊龜子
金二十二錢　麹町　林田　ふみ子
金二十二錢　仝　武野　たか子
金二十二錢　赤阪　山脇　ふさ子
金二十二錢　麻布　小倉　すゑ子
金二十二錢　神田　熊澤　しま子
金二十二錢　下谷　齋藤もゝよ子
金二十二錢　淺草　相坂　すみ子
金二十二錢　本所　荒井　多嘉子
金二十二錢　深川　中瀬　千代子
金二十二錢　深川　長江　しげ子
金二十二錢麻布部長妻　ひで子
金二十二錢仝　橋　喜久子
金二十二錢仝　鹿島　いね子
金二十二錢仝　服部　しげ子
金二十二錢仝　喜多山つせ子
金二十二錢仝　池上　なを子
金二十二錢仝　須藤　鳳子
金二十二錢仝　多々良と代子
金五十錢　神奈川照本　みや子
小計金六圓五拾貳錢

○尚他に金五圓京橋看護婦會一同より寄附せらるゝ由なるも入金の上にして尚揭示すべし



◎交換寄送雜誌（三月中）

●日本婦人	最近ノ部	東京帝國婦人協會
●日本産婆學雜誌	仝	東京日本産婆學協會
●日本赤十字	仝	東京日本赤十字發行所
●二十世紀醫事	仝	
●統計集誌	仝	東京統計協會
●統計學雜誌	仝	東京統計學社
●中外醫報	仝	中外醫報社
●獵友	仝	東京狩獵協會
●看護婦人	仝	看護婦人協會
●體育	仝	日本體育會
●大日本私立衛生雜誌	仝	大日本私立衛生會
●團々珍聞	仝	東京珍聞館
●通俗衛生	仝	大坂私立衛生會
●藥學雜誌	仝	東京日本藥學會
●醫事新報	仝	大坂醫事新報社
●婦人新報	仝	東京婦人矯風會
●婦女新聞	仝	婦女新聞社
●國家醫學會雜誌	仝	東京國家醫學會
●工業雜誌	仝	東京工業雜誌社
●感化教育雜誌	仝	感化教育雜誌社
●天然足會報	仝	同　會
●産科婦人科學雜誌	仝	東京日本産科婦人學會
●教育實驗界	仝	東京育成會

●彰善會雜誌	最近ノ部	東京彰善會本部
●淑女	仝	東京[illegible]社
●女學講義	仝	東京大日本女學會
●廣島衛生醫事月報	仝	廣島衛生醫事月報社
●新潟縣衛生雜誌	仝	新潟縣衛生會事務所
●日本橋區衛生協會雜誌	仝	日本橋區衛生會
●山陽新報	仝	同社
●大日本婦人教育會雜誌	仝	大日本婦人教育會
●[illegible]樂新聞	仝	大坂[illegible]樂新聞社
●よろづ報知	仝	よろづ報知社
●同志社おとづれ	仝	京都看病學校同窓會
●岡山孤兒院新報	仝	同社
●交通世界	仝	交通世界社
●なんな	仝	大日本女學會
●齒學研鑽	仝	富安齒科治療所



特別廣告

私立大日本婦人衞生會會員徽章調製に就て

一今般菊の花を以て本會々員の徽章に相定め候上部に菊の蕾と葉を以てし下部に菊の花を垂下す(地はつや消し銀花辨磨き出し)從來の會員劵は粗末なるもの故隨て遺失し易く且未だ差上げざる向も不少候間此際一般に改めて御交付致し度候也

一右徽章は襟留兼用に製せるを以て集會の際は勿論成べく平素御用ゐ被下度左すれば自然本會の廣く江湖に知れ渡り普及の一端と可相成候此徽章は其筋の內覽に供へ候間菊花御紋章に對する懸念毫も無之爲念此段申添候也(紋圖間に合はぬ爲め次號に掲載致候)

一右徽章は金銀の二種に分ち通常會員章(第一號銀メッキ製一個拾五錢)(第二號正銀製一個五拾錢)終身會員特別會員章(銀臺金章壹圓)にて御交付申上候

地方會員方は相當徽章代及び郵送費七錢を添へ小爲替にて前以て御申越を乞ふ目下徽章調製中に付御交付の義は四月中旬と相成るべく候へども此段豫め御報申上候也

明治三十四年三月

私立大日本婦人衞生會

生徒募集廣告

來四月本館第三學年以下の生徒を募集す入學希望の方は同月十日迄に必ず申込あるべし

入學希望者非常に多く到底全員の入學を許すこと能はざるは例年の經驗によりて明かなり故に本年入學希望の方は成るべく女子教育奬勵會員の紹介を得て申込まるべし左すれば會員の家族と同じく無試驗にて相當級に編入すべし

規則書入用の方は貳錢の郵便切手を封入して申込まるべし左すれば本館の規則は勿論女子教育奬勵會の趣旨書、規定及び會員の姓名等詳細に記載せる一覽書を進呈すべし

本館は位置高燥にして空氣の流通甚だ宜しく校舍の建築壯麗堅固なるのみならず廣濶なる芝生の運動場を有するか故に生徒の衛生上最も好適なりとす加之大日本婦人衛生會は屢々本館講堂に於て開かるゝが故に本館の生徒たるものは其の會場に列し親しく有名なる博士達の講演を聽き婦人衛生上の知識を得ることの多きは他に其の比を見ざる所なり

東京麹町區虎の門内

東京女學館

明治三十四年三月

東京帝國大學醫科大學附屬醫院案內

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町にあり會員の便を圖り左に構內の略圖及診察時間等を揭ぐ（詳細は本誌第百三十四號以下に揭出せり）



第一醫院外來患者診察日割

內科（新來）初めて診察を受けに行くもの
三浦教授　水金　午前九時より
入澤助教授　火土　仝
橋本助教授　月木　五

再來（二度目以上診察を受けに往くもの）
助手　火木土仝

外科（新來）
ドクトルスクリバ　水金　午前十時より三十人
近藤教授　火木土　午前九時より二十五人

再來
助手　月水金　午前九時より

眼科（新來）
河本教授　月火水木金土　午前八時より

再來
河本教授　月火水木金土
助手　仝上

產科婦人科（新來）
木下教授　火木土　午前九時より

再來
木下教授　火木土　仝上
助手

小兒科（新來）
弘田教授　月水金　午前十時より

再來
弘田教授　火木金　午前九時より
助手

皮膚病科（新來）
土肥教授　月水金　午前九時より

再來
土肥教授　月水金　仝上
助手

耳鼻咽喉科（新來）
岡田教授　月水金　午前九時より

再來
岡田教授　火木土　仝上
助手

脚氣病科
新來再來とも　火木金　仝上
助手

但大祭祝日及急病患者は此限にあらず

病室來訪時間（午後一時より仝五時迄）
外科及事務用　電話（本局四百四十六番）
產科婦人科小兒科　電話（本局四百四十四番）

第二醫院診察日割

第二醫院燒失後は第一醫院外科の一部に於て診療する元の如し

內科（新來）
青山教授　火木
入澤助教授　月
橋本助教授　水土
助手　金

新來
佐藤教授　火木土
助手　月水金

眼科（新來）
甲野助教授　火木土

入院料

一等　一日金參圓
二等　一日金貳圓
三等　一日金壹圓

但特別に附添看護婦を傭使するものは別に其傭使料を納めしむ

尚私費患者入院心得は本誌第百三十六號官費入院患者心得等は本誌第百三十七號を一覽せらるべし

明治卅三年六月創立

會員募集

帝國看護婦人協會

（勸告）立つて看護婦人の職にある人よ。看護事業に心ある人よ。同情に厚き人よ。希くは先づ來つて此の會に入り、而して大なる一致の活動をなせ！

（目的）帝國看護婦人協會の目的は、看護婦人の品性を高め、其の智識を深からしめ、而して其の共同を謀らん爲め、將た一般婦人に對し、看病思想を知得せしめんとするに有り！

（雜誌）其の機關として毎月一回づゝ『看護婦人』と題する雜誌を發行し會員に分つ。其の雜誌は材料豐かにして、記事精細、其の文字は平易にして趣味に富まんことを力む。

所載目録〔主張。學術。名家訪問。傳記。慰樂。文苑。參考。通信。問答。世間。報導。

（入會）本會の主旨に賛同せられんには、何人たりとも入會申出たるべし。會費一ヶ月十錢、郵券十錢送附あらば規則雜誌見本送附す

東京市京橋區築地三丁目十一番地

帝國看護婦人協會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條　本誌會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス

第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク

第參條　會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス
各役員ノ任期ハ一ヶ年トス
毎月壹回(第壹日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス

第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ
本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ

第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ
會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ

第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス

第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聴セシムベシ

第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス
上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ

第九條　特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

事務所宇都宮市西塙田町淺田方

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員　一時限り出金貳拾圓
特別會員　毎月　金參拾錢
通常會員　仝　金貳拾錢
支會員　甲毎月　金拾錢
　　　　乙仝　金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く

會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す

各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を執行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし

會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一間町十番戸
川上フサ子方

私立 山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く

會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す

役員の任期は一ヶ年とす

第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし

本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし

但し六ヶ月　又は一ヶ年分

新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す

上着及羽織は綃布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

山形支會

事務所山形市稙物町川上方

●大日本婦人衛生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員章を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子贊成員亦同じ

一男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受ることを得退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす

但每會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得(勉めて衣服は質素たるべきこと)

一講義演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員緣故ある男子は此限にあらずと雖も贊成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ來合すべし

●注意

一會費は東京府下に限り每月會費領收人を差出すべし地方會員入會の際は前金を以て會費三ヶ月分又は六ヶ月一ヶ年分を納付せらるべし

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一行	十錢
一頁	參圓
總て前金	

本誌定價一部二十錢　每月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會
東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎
東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　戶上義章
東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場

明治[illegible]年[illegible]第三種郵便物認可（明治[illegible]年[illegible]內務省許可）